

# **Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0**

## リリースノート

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

# 目次

---

はじめに .....	7
<b>1 Directory Server Enterprise Edition 7.0 の新機能 .....</b>	<b>17</b>
Directory Server Enterprise Edition 7.0 の新機能 .....	17
Directory Server の新機能 .....	17
Directory Proxy Server の新機能 .....	18
Directory Server Enterprise Edition 7.0 での動作変更 .....	20
製品配置の変更 .....	20
LDIF のレプリカ更新ベクトル .....	20
インストールディレクトリから Sun Microsystems プラグインのライブラリを ロードする .....	20
最適化されたインポート .....	20
RFC 4522 への準拠 .....	21
新しい管理コマンドと機能 .....	21
バイナリバックアップ .....	21
高速になったインデックスの再生成 .....	21
インデックスの状態 .....	22
ルート DSE での SSL 暗号化を有効化 .....	22
<b>2 互換性について .....</b>	<b>23</b>
プラットフォームのサポート .....	23
システム仮想化サポート .....	24
ソフトウェアのサポート .....	25
削除されたソフトウェアコンポーネント .....	25
Directory Service Control Center の変更点 .....	25
互換性についての注意事項 .....	26

<b>3</b>	<b>インストールの注意点</b> .....	29
	サポートサービスとライセンス .....	29
	サポートサービス .....	29
	Directory Server Enterprise Edition で管理するエントリのライセンス .....	30
	ソフトウェアの入手 .....	30
	ハードウェア要件 .....	31
	Directory Server Enterprise Edition のハードウェア要件 .....	31
	Identity Synchronization for Windows のハードウェア要件 .....	32
	オペレーティングシステムの要件 .....	33
	Directory Server Enterprise Edition のオペレーティングシステム要件 .....	33
	Identity Synchronization for Windows のオペレーティングシステム要件 .....	36
	ソフトウェア依存関係の要件 .....	37
	Directory Server Enterprise Edition のソフトウェア依存関係の要件 .....	37
	Directory Service Control Center でサポートされているアプリケーション サーバー .....	38
	サポートされている JDBC データソース .....	38
	Directory Service Control Center でサポートされるブラウザ .....	38
	ファイアウォール環境での Identity Synchronization for Windows および Directory Server プラグインの要件 .....	39
	Identity Synchronization for Windows のソフトウェア依存関係の要件 .....	39
	ファイアウォール環境での Identity Synchronization for Windows の要件 .....	40
	インストールに必要な特権と資格 .....	41
	Directory Server Enterprise Edition のインストールに必要な特権 .....	41
	Identity Synchronization for Windows のインストールに必要な特権と資格 .....	42
<b>4</b>	<b>Directory Server</b> の修正されたバグと既知の問題点 .....	43
	Directory Server 7.0 で修正されたバグ .....	43
	Directory Server の既知の問題点と制限事項 .....	51
	Directory Server 7.0 の制限事項 .....	51
	Directory Server 7.0 の既知の問題点 .....	53
<b>5</b>	<b>Directory Proxy Server</b> の修正されたバグと既知の問題点 .....	63
	Directory Proxy Server 7.0 で修正されたバグ .....	63
	Directory Proxy Server の既知の問題点と制限事項 .....	71
	Directory Proxy Server 7.0 の制限事項 .....	71

---

Directory Proxy Server 7.0 の既知の問題点 .....	72
<b>6 Identity Synchronization for Windows</b> の修正されたバグと既知の問題点 .....	79
Identity Synchronization for Windows の既知の問題と制限事項 .....	79
Identity Synchronization for Windows の制限事項 .....	79
システムまたはアプリケーション障害時のデータ回復の実行 .....	82
Identity Synchronization for Windows 6.0 の既知の問題点 .....	85
<b>7 Directory Server Resource Kit</b> の修正されたバグと既知の問題点 .....	93
Directory Server Resource Kit で修正されたバグ .....	93
Directory Server Resource Kit の既知の問題点と制限事項 .....	93



# はじめに

---

このリリースノートでは、リリース時点で判明している、重要な情報を示します。ここでは、新機能や拡張機能、既知の制限事項や問題点、技術的な注意事項、その他の関連情報を説明します。Directory Server Enterprise Edition をお使いになる前に、このリリースノートをお読みください。

## 内容の紹介

このマニュアルは、以下の章で構成されています。

第2章「[互換性について](#)」では、以前のバージョンのコンポーネント製品との互換性や、Directory Server Enterprise Edition ソフトウェアに対して今後予定されている変更について説明しています。

第3章「[インストールの注意点](#)」では、ハードウェアおよびソフトウェアの要件など、インストールに関連する事項を扱っています。

第4章「[Directory Server の修正されたバグと既知の問題点](#)」では、Directory Server の修正点および問題点の一覧を示しています。

第5章「[Directory Proxy Server の修正されたバグと既知の問題点](#)」では、Directory Proxy Server の修正点および問題点の一覧を示しています。

第6章「[Identity Synchronization for Windows の修正されたバグと既知の問題点](#)」では、Identity Synchronization for Windows の修正点および問題点の一覧を示しています。

第7章「[Directory Server Resource Kit の修正されたバグと既知の問題点](#)」では、Directory Server Resource Kit の概要を紹介しています。この章では、Directory Server Resource Kit の修正点および問題点の一覧も示します。

# Sun Directory Server Enterprise Edition ドキュメントセット

このドキュメントセットでは、Sun Directory Server Enterprise Edition を使用してディレクトリサービスを評価、設計、配備、および管理する方法について説明します。また、Directory Server Enterprise Edition 用クライアントアプリケーションの開発方法についても説明します。Directory Server Enterprise Edition ドキュメントセットは <http://docs.sun.com/coll/1819.1> で入手できます。

利用できるすべてのドキュメントを次の表に示します。

表 P-1 Directory Server Enterprise Edition ドキュメント

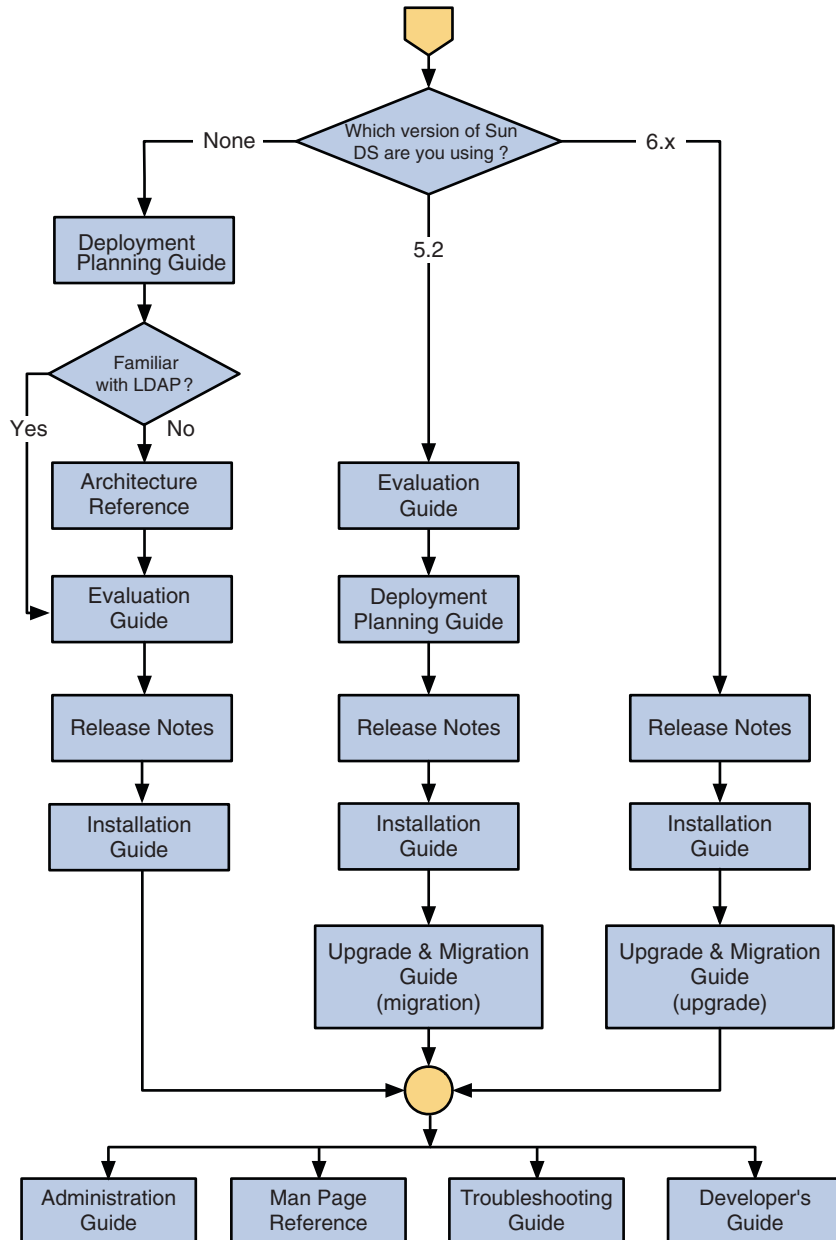
ドキュメントタイトル	内容
『Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 リリースノート』	既知の問題点を含め、Directory Server Enterprise Edition についての最新情報を提供しています。
『Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 Documentation Center』	重要情報をすばやく探すのに役立つ、ドキュメントセットの重要な領域へのリンクを提供しています。
『Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 Evaluation Guide』	このリリースの重要な機能を紹介します。これらの機能の仕組みや提供される利点を、単独システムに実装可能な配備のコンテキストに沿って例示します。
『Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 Deployment Planning Guide』	Directory Server Enterprise Edition をベースとする、可用性と拡張性に優れたディレクトリサービスを計画および設計する方法について説明します。配備の計画および設計の基本的な概念および原則を提示します。ソリューションのライフサイクルについて検討し、Directory Server Enterprise Edition ベースのソリューションを計画するために使用する概略レベルのサンプルおよび戦略を提供します。
『Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 Installation Guide』	Directory Server Enterprise Edition ソフトウェアのインストール方法について説明します。インストール済みソフトウェアの設定方法および設定済みソフトウェアの検証方法を示します。
『Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 Upgrade and Migration Guide』	version 6 のインストールをアップグレードする手順および version 5.2 を移行する手順を示します。
『Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 Administration Guide』	Directory Server Enterprise Edition をコマンド行から管理するための手順を示します。  Directory Service Control Center (DSCC) を使用して Directory Server Enterprise Edition を管理する際のヒントおよび手順については、DSCC のオンラインヘルプを参照してください。
『Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 Developer's Guide』	Directory Server Enterprise Edition の一部として提供されるツールおよび API を利用して、ディレクトリクライアントアプリケーションを開発する方法を示します。



表 P-1 Directory Server Enterprise Edition ドキュメント (続き)

ドキュメントタイトル	内容
『Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 Reference』	Directory Server Enterprise Edition の技術および概念の基礎を紹介し、コンポーネント、アーキテクチャー、プロセス、および機能について説明しています。
『Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 Man Page Reference』	Directory Server Enterprise Edition を通じて利用可能なコマンド行ツール、スキーマオブジェクト、およびその他の公開インタフェースについて説明しています。このドキュメントの個別の節を、オンラインマニュアルページとしてインストールすることができます。
『Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 Troubleshooting Guide』	さまざまなツールを使用して問題の範囲を特定し、データを収集し、問題部分の障害追跡を行う手順について説明しています。
『Sun Java System Identity Synchronization for Windows 6.0 Deployment Planning Guide』	Identity Synchronization for Windows の計画と配備に関する一般的なガイドラインやベストプラクティスを示しています。
『Sun Java System Identity Synchronization for Windows 6.0 Installation and Configuration Guide』	Identity Synchronization for Windows をインストールおよび設定する方法を説明しています。
Additional Installation Instructions for Sun Java System Identity Synchronization for Windows 6.0	Directory Server Enterprise Edition 7.0 のコンテキストに沿ってその他のインストール手順を示しています。

Directory Server Enterprise Edition の概要については、次のドキュメントを記載順に確認してください。



## 関連ドキュメント

SLAMD 分散負荷生成エンジンは、ネットワークベースのアプリケーションのパフォーマンスについて負荷テストを実行し、分析するために設計された Java アプリ

ケーションです。このアプリケーションは、LDAP ディレクトリサーバーのパフォーマンスについてベンチマークを実行し、分析するために Sun Microsystems, Inc. によって開発されました。SLAMD は、OSI 認定オープンソースライセンスである Sun Public License に基づいて、オープンソースアプリケーションとして使用できます。SLAMD の詳細については、<http://www.slamd.com/> を参照してください。SLAMD は、java.net プロジェクトでも提供されています。<https://slamd.dev.java.net/> を参照してください。

Java Naming and Directory Interface (JNDI) は、LDAP や DSML v2 による Java アプリケーションから Directory Server へのアクセスに対応しています。JNDI の詳細については、<http://java.sun.com/products/jndi/> を参照してください。『JNDI Tutorial』には、詳しい説明と JNDI の使用例が記載されています。このチュートリアルは、<http://java.sun.com/products/jndi/tutorial/> で参照できます。

Directory Server Enterprise Edition のライセンス形態には、スタンドアロン製品、Sun Java Identity Management Suite などの Sun 製品スイートの一部、または Sun からほかのソフトウェア製品へのアドオンパッケージがあります。

Identity Synchronization for Windows は Message Queue を制限されたライセンスで使用します。Message Queue のマニュアルは <http://docs.sun.com/coll/1307.2> から入手できます。

Identity Synchronization for Windows は、Microsoft Windows のパスワードポリシーを管理するための製品です。

- Windows Server 2003 のパスワードポリシーについての情報は、[Microsoft TechNet Web サイト](#)で公開されています。
- Microsoft 証明書サービスのエンタープライズルート認証局に関する情報は、[Microsoft サポートオンライン Web サイト](#)で公開されています。
- Microsoft システムでの LDAP over SSL の設定に関する情報は、[Microsoft サポートオンライン Web サイト](#)で公開されています。

## 再頒布可能ファイル

Directory Server Enterprise Edition のファイルは、再頒布できません。

## デフォルトパスとコマンドの場所

この節では、ドキュメントで使用するデフォルトのパスについて説明し、オペレーティングシステムや配備タイプによって異なるコマンドの場所を示します。

## デフォルトパス

次の表では、このドキュメントで使用するデフォルトのパスについて説明します。インストールされるファイルの詳細な説明については、『[Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 Reference](#)』の第1章「[Directory Server Enterprise Edition File Reference](#)」を参照してください。

表P-2 デフォルトパス

ブレースホルダ	説明	デフォルト値
<i>install-path</i>	Directory Server Enterprise Edition ソフトウェアのベースインストールディレクトリを表します。	解凍機能を使用して ZIP 形式の配布パッケージからインストールする場合、 <i>install-path</i> は <i>current-directory/dsee7</i> になります。  ネイティブパッケージ配布からインストールする場合、 <i>install-path</i> は <i>/opt/SUNWdsee7</i> になります。
<i>instance-path</i>	Directory Server または Directory Proxy Server のインスタンスのフルパスを表します。  このマニュアルでは、Directory Server には <i>/local/dsInst/</i> を、Directory Proxy Server には <i>/local/dps/</i> を使用します。	デフォルトパスはありません。インスタンスパスは、常にローカルファイルシステム上に存在するようにします。  Solaris システムでは、 <i>/var</i> ディレクトリが推奨されます。
<i>serverroot</i>	Identity Synchronization for Windows のインストール先の親ディレクトリを表します	インストールごとに異なります。Directory Server および Directory Proxy Server では、 <i>serverroot</i> の概念が存在しなくなったことに注意してください。
<i>isw-hostname</i>	Identity Synchronization for Windows インスタンスのディレクトリを表します	インストールごとに異なります
<i>/path/to/cert8.db</i>	Identity Synchronization for Windows におけるクライアントの証明書データベースのデフォルトパスおよびファイル名を表します	<i>current-working-dir/cert8.db</i>
<i>serverroot/isw-hostname/logs/</i>	システムマネージャー、各コネクタ、およびセントラルログガーのログファイルを Identity Synchronization for Windows がローカルに保存する場所のデフォルトパスを表します	インストールごとに異なります
<i>serverroot/isw-hostname/logs/central/</i>	Identity Synchronization for Windows セントラルログファイルのデフォルトパスを表します	インストールごとに異なります

## コマンドの場所

この節で示す次の表は、Directory Server Enterprise Edition のマニュアルで使用されるコマンドの場所の一覧です。各コマンドの詳細については関連するマニュアルページを参照してください。

表 P-3 コマンドの場所

コマンド	ネイティブパッケージ配布	ZIP 形式の配布
cacaoadm	/usr/sbin/cacaoadm	Solaris、Linux、HP-UX — <i>install-path/bin/cacaoadm</i>
		Windows - <i>install-path\bin\cacaoadm.bat</i>
certutil	/usr/sfw/bin/certutil	<i>install-path/bin/certutil</i>
dpadm(1M)	<i>install-path/bin/dpadm</i>	<i>install-path/bin/dpadm</i>
dpconf(1M)	<i>install-path/bin/dpconf</i>	<i>install-path/bin/dpconf</i>
dsadm(1M)	<i>install-path/bin/dsadm</i>	<i>install-path/bin/dsadm</i>
dsccon(1M)	<i>install-path/bin/dsccon</i>	<i>install-path/bin/dsccon</i>
dsccreg(1M)	<i>install-path/bin/dsccreg</i>	<i>install-path/bin/dsccreg</i>
dscsetup(1M)	<i>install-path/bin/dscsetup</i>	<i>install-path/bin/dscsetup</i>
dsconf(1M)	<i>install-path/bin/dsconf</i>	<i>install-path/bin/dsconf</i>
dsmig(1M)	<i>install-path/bin/dsmig</i>	<i>install-path/bin/dsmig</i>
dsutil(1M)	<i>install-path/bin/dsutil</i>	<i>install-path/bin/dsutil</i>
entrycmp(1)	<i>install-path/bin/entrycmp</i>	<i>install-path/bin/entrycmp</i>
fildif(1)	<i>install-path/bin/fildif</i>	<i>install-path/bin/fildif</i>
idsktune(1M)	提供されていません	ZIP 形式の配布パッケージを解凍したディレクトリにあります
insync(1)	<i>install-path/bin/insync</i>	<i>install-path/bin/insync</i>
ldapsearch(1)	/opt/SUNWdsee/dsee6/bin	<i>install-path/dsrk/bin</i>
repldisc(1)	<i>install-path/bin/repldisc</i>	<i>install-path/bin/repldisc</i>

## 書体の表記規則

次の表は、本書で使用する表記上の規則について説明しています。

表 P-4 書体の表記規則

字体または記号	意味	例
<code>AaBbCc123</code>	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力を示します。	<code>.login</code> ファイルを編集します。 すべてのファイルを一覧表示するには、 <code>ls -a</code> を使用します。 <code>machine_name% you have mail.</code>
<b><code>AaBbCc123</code></b>	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力とは区別して示します。	<code>machine_name%<b>su</b></code> <b>Password:</b>
<i><code>aabbcc123</code></i>	変数を示します。実際の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するコマンドは、 <code>rm filename</code> です。
<i><b><code>AaBbCc123</code></b></i>	書名、新しい用語、強調する語句を示します。	『ユーザーズガイド』の第6章を参照してください。 キャッシュは、ローカルに保存されたコピーです。 ファイルを保存しないでください。 注意:一部の強調語句は、オンラインでは太字で示されます。

## コマンドのシェルプロンプトの例

次の表は、C シェル、Bourne シェル、および Korn シェルの、デフォルトの UNIX システムプロンプトとスーパーユーザーのプロンプトを示しています。

表 P-5 シェルプロンプト

シェル	プロンプト
C シェル	<code>machine_name%</code>
C シェル(スーパーユーザーの場合)	<code>machine_name#</code>
Bourne シェルおよび Korn シェル	<code>\$</code>
Bourne シェルおよび Korn シェル(スーパーユーザーの場合)	<code>#</code>

## コマンドのシェルプロンプトの例

次の表は、デフォルトのシステムプロンプトとスーパーユーザープロンプトを示します。

表 P-6 シェルプロンプト

シェル	プロンプト
UNIX および Linux システムの C シェル	machine_name%
UNIX および Linux システムの C シェルのスーパーユーザー	machine_name#
UNIX および Linux システムの Bourne シェルおよび Korn シェル	\$
UNIX および Linux システムの Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー	#
Microsoft Windows のコマンド行	C:\

## 記号の表記規則

次の表は、このマニュアルで使用される記号の一覧です。

表 P-7 記号の表記規則

記号	説明	例	意味
[ ]	省略可能な引数やコマンドオプションが含まれます。	ls [-l]	-l オプションは省略可能です。
{   }	必須のコマンドオプションの選択肢を囲みます。	-d {y n}	-d オプションでは、y か n のどちらかの引数を使用する必要があります。
\${ }	変数参照を示します。	\${com.sun.javaRoot}	com.sun.javaRoot 変数の値を参照します。
-	同時に押すキーを連結します。	Control-A	Ctrl キーと A キーを同時に押します。
+	連続して押すキーを連結します。	Ctrl+A+N	Ctrl キーを押し、離してから、以後のキーを続けて押します。
→	グラフィカルユーザーインタフェースで選択するメニュー項目を示します。	「ファイル」→「新規」→「テンプレート」	「ファイル」メニューから「新規」を選択します。「新規」サブメニューから、「テンプレート」を選択します。

## ドキュメント、サポート、トレーニング

Sun の Web サイトでは、次の追加リソースに関する情報を入手できます。

- ドキュメント (<http://www.sun.com/documentation/>)
- サポート (<http://www.sun.com/support/>)
- トレーニング (<http://www.sun.com/training/>)

## ご意見、ご要望の送付先

Sun ではドキュメントの品質向上のため、お客様のご意見、ご要望をお受けしております。ご意見をお寄せいただくには、<http://docs.sun.com> にアクセスして、「Feedback」をクリックしてください。



# Directory Server Enterprise Edition 7.0 の新機能

---

これらのリリースノートでは、公開された時点での最新情報を示しています。ただし、英語版のリリースノートの公開日がほかの翻訳版より新しい場合、ほかの翻訳版には記載されていないより新しい情報で内容が更新されている可能性があります。最新情報を得るには、英語版のリリースノートを参照してください。

この節では、次の情報について説明します。

- 17 ページの「[Directory Server Enterprise Edition 7.0 の新機能](#)」
- 20 ページの「[Directory Server Enterprise Edition 7.0 での動作変更](#)」

## Directory Server Enterprise Edition 7.0 の新機能

### Directory Server の新機能

#### 新しい DB エントリの形式

データベースエントリのサイズを縮小するため、既存のデータベースエントリの形式が変更されます。エントリの内部表現が ASCII LDIF 形式からタグ付きバイナリの形式に変更されました。データベースに格納されているデータは、dn: で始まるという特徴がなくなり、値となるエントリの 1 バイト目が 0xE0 より大きくなることもありません。つまり、0xE0 ~ 0xFF までのすべての値は、内部用として予約されていると見なされます。

互換性の理由から、エントリは LDIF とバイナリ表現の混在が可能です。変更操作をするとエントリはバイナリ形式で書き込まれます。

サフィックスエントリデータはディスクに書き込む際に圧縮して、ディスク容量を最小化できます。compression-mode および compression-entries プロパティに従って圧縮が有効になっています。

詳細については、『Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 Developer's Guide』の第8章「Writing Entry Store and Entry Fetch Plug-Ins」を参照してください。

## コピー不要の復元

ディスク容量を節約するため、ファイルをコピーする代わりに移動することでサーバーを復元できます。restore コマンドでフラグを設定することで、コピー不要の復元が実行できます。

詳細については、『Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 Administration Guide』の「Binary Restore」を参照してください。

## Windows での IPv6 サポート

Windows システムにインストールされたインスタンスがインターネットプロトコル version 6 をサポートするようになりました。

同様に、その他のオペレーティングシステムのサーバーインスタンスも IPv6 をサポートします。

## アカウント管理のための新しいコマンド

dsutil コマンドによって、以前は ns-activate、ns-inactivate、および ns-accountstatus の各コマンドが提供していた機能を実行できるようになりました。

## 新しいバックアップ機能

--flags verify-db オプションが指定された場合、バックアップ操作はアーカイブされたデータに対してデータベース検査を実行します。

## インデックスフィルタアナライザ

インデックスフィルタアナライザは、インデックスを生成可能な最大エントリ数 (ALLID しきい値) を超過したエントリ数があるインデックスリストを特定し、そうしたインデックスリストを使用してユーザー検索を監視します。インデックスフィルタアナライザは、dsconf enable-index-filter-analyzer コマンドを使用して有効にします。

## Directory Proxy Server の新機能

### エントリ集約

エントリ集約によって得られる結果を次に示します。

- 二次データビューへのクエリを最適化する
- 必要な場合、二次データビューを最初に検索する

- 大きな結果セット (VLV コントロール) をよりよく処理する
- 二次ソースに対するグループ化要求

## JDBC データビュー

JDBC データビューが Date 型と Blob 型をサポートするようになりました。

## 最適化された監視とログ記録

Directory Proxy Server は、複数コアのシステムに対してより効率的に動作する、新しいログ記録エンジンの実装を使用します。

## 接続ハンドラ

- LDAP グループに基づく新しい条件
- 最大スループットの管理

## コーディネーターデータビュー

企業の合併など、より多くのユースケースに対応するための新しい種類のデータビュー。

詳細については、『[Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 Administration Guide](#)』の「[Creating and Configuring Coordinator Data Views](#)」を参照してください。

## 配布アルゴリズム

『[Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 Administration Guide](#)』の「[Configuring Pattern Matching Distribution Algorithm](#)」に記載されているように、強化された正規表現配布アルゴリズムが追加されました。

## 結合データビューの検索

結合データビューの検索パフォーマンスを最適化するため、Directory Proxy Server は仮想リスト表示 (vlv) インデックスを活用します。これにより、あるデータソースには多数のエントリがあり、ほかのデータソースにはごく少数のエントリがあるために、検索がサイズの上限に達するという事態を回避しやすくなります。VLV インデックスを使用するには、『[Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 Reference](#)』の「[Browsing Index](#)」を参照してください。

## Directory Server Enterprise Edition 7.0 での動作変更

この節では、このリリースで加えられた動作変更について説明します。

### 製品配置の変更

Directory Server Enterprise Edition 製品の配置は次のように変更されました。

- すべてのコマンドは、*install-path/dsee7/bin* に配置されました。
- プラグインは、*install-path/dsee7/lib* に配置されました。

ファイルの場所の完全なリストについては、『[Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 Reference](#)』の「[Software Layout for Directory Server Enterprise Edition](#)」を参照してください。

### LDIF のレプリカ更新ベクトル

Directory Server Enterprise Edition 7.0 から、エクスポート処理 (`dsadm export` コマンド) は常に、エクスポートした LDIF ファイル内の最後のエントリとしてレプリカ更新ベクトル (RUV) を配置します。

### インストールディレクトリから Sun Microsystems プラグインのライブラリをロードする

Directory Server Enterprise Edition は Sun Microsystems プラグインのライブラリをソフトウェアがインストールされているパスからロードします。ライブラリは、LDIF に記載されているパスからはロードされなくなります。

### 最適化されたインポート

#### グローバルインポート処理

新しいスレッドモデルにより、マルチコアマシンに対するインポートのパフォーマンスが向上しました。

#### 並列マージ

インポートがマルチパスである場合、インデックスと一時ファイルを保持するのに十分なメモリーがあればインデックスのマージは並行して行われます。インデックスの並列マージによって、パフォーマンスが向上します。

## RFC 4522 への準拠

検索操作によって、バイナリ転送を必要とする構文を持つ属性が返された場合、`;binary` 修飾子を属性名に付加します。RFC 4522 への準拠を無効にするには、`compat-flag` プロパティを `no-rfc4522` に設定します。

## 新しい管理コマンドと機能

この節では、管理コマンドの動作変更について説明します。

- `dsadm` および `dpadm` コマンドは、ローカルで実行しているサーバーを一覧表示および停止するために、新しい `list-running-instances` および `stop-running-instances` オプションを提供します。
- `dsadm` および `dpadm` コマンドは、証明書を管理するための新しいオプションを提供します。 `--validity` および `--keysize` オプションは `dsadm(1M)` および `dpadm(1M)` で説明されています。
- `dsadm` コマンドは、証明書を管理するための追加のオプションも提供しています。 `--sigalg`、`--phone`、`--email`、および `--dns` オプションは `dsadm(1M)` で説明されています。
- `dpadm set-flags` コマンドは 2 つの新しいフラグ `jvm-path` および `server-umask` をサポートします。これらについては `dpadm(1M)` で説明されています。
- Directory Server Enterprise Edition の以前のバージョンではいくつかのコマンドが利用できましたが、それらの機能はほかのコマンドによって提供されるようになりました。『Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 Upgrade and Migration Guide』の「Command Line Changes」で説明しています。
- いくつかのコマンドが Directory Server Enterprise Edition から削除されました。『Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 Upgrade and Migration Guide』の「Command Line Changes」で説明しています。

## バイナリバックアップ

バイナリバックアップは、データベースの復旧を実行することでバックアップファイルを変更します。これによってバックアップトランザクションログがバックアップデータベースにフラッシュされます。バックアップをそのまま残すには、`--flags no-recovery` オプションを使用します。

## 高速になったインデックスの再生成

インデックスの再生成はより効率的に実行されるようになり、最新のインポート手法や速度の向上を繰り返し使えるようになりました。

## インデックスの状態

`dsconf info` コマンドは、設定変更のあとなどに、どの属性のインデックスを再生成する必要があるかを示します。

## ルート DSE での SSL 暗号化を有効化

ルート DSE には、セキュリティーライブラリでサポートされている暗号の一覧が含まれています。リリース 7.0 では、ルート DSE には `enabledSSLCiphers` 属性での SSL ネゴシエーションに利用できる暗号も含まれていて、デフォルトでサポートされているすべての暗号のサブセットになっています。

## 互換性について

---

この章では、Directory Server Enterprise Edition コンポーネント製品から削除されたか、または非推奨となった機能について説明します。また、Directory Server Enterprise Edition コンポーネント製品の機能のうち、削除される可能性がある機能と非推奨となる可能性がある機能についても説明します。

この章では、次の内容について説明します。

- 23 ページの「プラットフォームのサポート」
- 25 ページの「ソフトウェアのサポート」
- 26 ページの「互換性についての注意事項」

インタフェースの安定性の度合いについては、『[Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 Man Page Reference](#)』において、マニュアルページのエントリごとに示されています。

## プラットフォームのサポート

Directory Server Enterprise Edition 7.0 では、次のプラットフォームのサポートが削除されました。

- Windows 2000
- Red Hat Advanced Server 3.0
- J2SE プラットフォーム 1.4
- SUSE 9
- Solaris 10 (x86、32 ビット)
- Windows 用のネイティブパッケージインストーラ
- Red Hat 用のネイティブパッケージインストーラ
- HP-UX 用のネイティブパッケージインストーラ

ネイティブパッケージのインストーラは Solaris オペレーティングシステムでのみサポートされています。

version 7.0 でサポートされなくなったプラットフォームに Directory Server Enterprise Edition をインストールしている場合は、使用しているオペレーティングシステムを次の表に記載されているバージョンにアップグレードしてください。

以前のオペレーティングシステムのバージョン	7.0のインストールに必要なオペレーティングシステムの最小バージョン
Red Hat Enterprise Linux 3 (x86)	Red Hat Enterprise Linux 4 (x86)
Red Hat Enterprise Linux 3 (x64)	Red Hat Enterprise Linux 4 (x64)
SUSE Linux Enterprise Server 9 (32 ビット)	SUSE Linux Enterprise Server 10 (32 ビット)
SUSE Linux Enterprise Server 9 (x64)	SUSE Linux Enterprise Server 10 (x64)
Microsoft Windows 2000 Server	Microsoft Windows 2003 Server
Hewlett Packard HP-UX 11.11	Hewlett Packard HP-UX 11.23

サポートされているオペレーティングシステムについて詳しくは、[33 ページの「オペレーティングシステムの要件」](#)を参照してください。

## システム仮想化サポート

システム仮想化は、共有ハードウェア上で複数のオペレーティングシステム (OS) インスタンスを個別に動作させるためのテクノロジーです。機能的には、仮想化環境で動作する OS に配備されるソフトウェアは、ベースとなるプラットフォームが仮想化されていることを認識しないのが一般的です。Sun では、代表的なシステム仮想化環境および OS を組み合わせて Sun 製品のテストを実施しています。テストの目的は、適切にサイジングおよび設定された仮想化環境上で、仮想化されていないシステム上での動作と同様に Sun 製品が正常な動作を継続することの検証です。仮想化環境での Sun 製品に対する Sun のサポートについては、[System Virtualization Support in Sun Java System Products](#)を参照してください。

このリリースでは、Directory Server Enterprise Edition 7.0 ソフトウェアがすでにネイティブでサポートしている OS であれば、Sun Microsystems は VMware テクノロジー上で動作するすべての OS をサポートします。Sun Microsystems は、OS とハードウェアのすべての組み合わせを保証するわけではありませんが、基礎となる VMware テクノロジーの実装に依存します。VMware テクノロジーでの Directory Server Enterprise Edition 7.0 ソフトウェアの本稼働配備はお勧めしません。

このリリースの Directory Server Enterprise Edition でサポートされているハードウェアプラットフォームについては、[31 ページの「ハードウェア要件」](#)を参照してください。



このリリースの Directory Server Enterprise Edition でサポートされているオペレーティングシステムと OS バージョンについては、33 ページの「オペレーティングシステムの要件」を参照してください。

Directory Server Enterprise Edition 7.0 は、Solaris 10 Update 3 およびそれ以降のバージョンの SPARC プラットフォームで論理ドメイン (LDoms) をサポートしています。LDoms の詳細については、『[Logical Domains \(LDoms\) 1.0.1 Administration Guide](#)』を参照してください。

---

注 - 仮想化環境での Identity Synchronization for Windows のインストールはサポートされていません。

---

## ソフトウェアのサポート

### 削除されたソフトウェアコンポーネント

次の Directory Server Enterprise Edition コンポーネントはこのリリースで削除されました。

- Directory Editor
- Sun Cluster サポート用のエージェント
- Sun Java Web Console (Lockhart)

### Directory Service Control Center の変更点

この節では、Directory Service Control Center (DSCC) の動作の変更点を説明します。

- DSCC は、Sun Web Server 7、GlassFish 2.1、および BEA WebLogic プラットフォームでサポートされるようになりました。
- DSCC の国際化バージョンが利用できるようになりました。
- DSCC が Sun Java Web Console でサポートされなくなりました。Sun Java Web Console では DSCC の手動による WAR ファイル配備のみがサポートされます。

## 互換性についての注意事項

この節では、このリリースで削除されたか、または非推奨となった機能の一覧を示し、次のリリースで削除される可能性のある機能やコマンドを取り上げます。

- パスワードポリシーでは、DS5-compatible-mode 相互運用モードが非推奨になりました。このバージョンでは、DS6-mode 相互運用モードを使用する必要があります。
- 『Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 Upgrade and Migration Guide』の「Command Line Changes」で説明されているとおり、version 5.2 の一部のコマンドが Directory Server 7.0 から削除されました。
- 次の従来のスクリプトが次のコマンドに置き換えられました。

従来のスクリプト	新しいコマンド
start-slapd	dsadm start
ldif2db	dsadm import
db2ldif	dsadm export
bak2db	dsadm restore
db2bak	dsadm archive
restart-slapd	dsadm restart
stop-slapd	dsadm stop

詳しくは、『Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 Upgrade and Migration Guide』の「Command Line Changes」を参照してください。

- レプリケートされたサーバトポロジを移行する前に、『Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 Upgrade and Migration Guide』の第5章「Migrating a Replicated Topology」を確認してください。
- Directory Server インスタンスを作成するとき、パスワードポリシーは初期状態で下位互換に設定されます。アップグレード後、より柔軟できめ細やかなパスワードポリシー構成を可能にするために、互換性モードを変更する必要があります。ポリシー変換は Directory Server によって管理されます。下位互換のパスワードポリシー設定は、将来のリリースで削除される可能性があります。
- Directory Server インスタンスを作成する場合、DN 変更操作のサポートは無効化されています。レプリケーショントポロジ内のすべてのサーバーインスタンスをアップグレードしたあと、DN 変更操作を正常にレプリケートできます。その時点で、各サーバーインスタンスで DN 変更操作のサポートを有効にすることができます。この目的には、dsconf set-server-prop moddn-enabled:on コマンドを使用します。

version 5.2 インスタンスとの互換性を提供するため、サーバーインスタンスの作成中は DN 変更操作が無効化されます。

- db-path サフィックスプロパティ (dsconf set-suffix-prop *suffix-name* db-path:/new/directory および dsconf create-suffix --db-path) は将来のリリースで削除される可能性があります。db-path サーバープロパティを使用してすべてのサフィックスをインスタンスディレクトリ以外のディレクトリに格納します。
- Sun は現在、負荷のある状態での dsadm repack サブコマンドの安定性についての問題解決に取り組んでいます。安全措置として、Sun は 7.0 リリースの dsadm repack サブコマンドを一時的に無効化しています。

そのため、dsadm repck の実行を試みると、次のメッセージが表示されます。

```
: [19/Oct/2009:11:51:50 +0200] - WARNING<99999> - conn=-1 op=-1 msgId=-1  
- The repack function is temporarily disabled for the 7.0 release.
```

詳細については、ご購入先までお問い合わせください。

- 『Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 Developer's Guide』の第2章「Changes to the Plug-In API Since Directory Server 5.2」では、プラグイン API の変更点について詳しく説明しています。これらの参照先で非推奨であることが示されているインタフェースは、将来のリリースで削除される可能性があります。
- Identity Synchronization for Windows に対する Directory Server Enterprise Edition 7.0 の変更はありません。  
Identity Synchronization for Windows 製品の最新バージョンは 6.0 です。  
Identity Synchronization for Windows にアップグレードする前に、『Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 Upgrade and Migration Guide』の第8章「Migrating Identity Synchronization for Windows」をお読みください。
- Directory Server Resource Kit に対する Directory Server Enterprise Edition 7.0 の変更はありません。
- LDAP ユーティリティーに関する Sun Solaris システムのマニュアルページは、Directory Server Enterprise Edition で提供されるバージョンの LDAP ユーティリティー ldapsearch、ldapmodify、ldapdelete、および ldapadd についての記述がありません。これらのコマンドは、Solaris システムで別々には提供されなくなり、代わりに将来のバージョンのオペレーティングシステムで提供されるコマンドに統合される可能性があります。LDAP クライアントツールのマニュアルページについては、『Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 Man Page Reference』を参照してください。



## インストールの注意点

---

この章では Directory Server Enterprise Edition ソフトウェアをダウンロードする場所と、主なインストール要件について示します。

この章では、次の内容について説明します。

- 29 ページの「サポートサービスとライセンス」
- 新機能
- 30 ページの「ソフトウェアの入手」
- 31 ページの「ハードウェア要件」
- 33 ページの「オペレーティングシステムの要件」
- 37 ページの「ソフトウェア依存関係の要件」
- 41 ページの「インストールに必要な特権と資格」

Directory Server 製品ラインについての最新情報は、Sun Directory Services blog (<http://blogs.sun.com/directoryservices/>) を参照してください。

## サポートサービスとライセンス

製品のインストールを開始する前に、サポートとライセンスに関する情報を注意深くお読みください。

### サポートサービス

Sun Directory Server Enterprise Edition には、Sun Software Service Standard、Premium、および Premium Plus というプランが用意されています。これらは Sun の販売担当者、販売パートナー、またはオンライン (<http://www.sun.com/sales/index.jsp>) 経由で購入することができます。これらのサービスプランには、電話およびオンラインによる技術サポート、オンデマンドなソフトウェア更新、オンラインシステム管理リソース、サポート通知サービス、ワンストップの相互運用性

支援 (Premium プランおよび Premium Plus プランのみ) が含まれています。さらに、Premium Plus プランではお客様中心のサポートチームが対応します。

提供されるすべての機能については、次のサイトを参照してください。 <http://www.sun.com/service/serviceplans/software/overview.xml>

Sun の提供するすべてのサービスプログラムを含むサービスリストには、次のサイトからアクセスできます。 <http://www.sun.com/servicelist>

## Directory Server Enterprise Edition で管理するエントリのライセンス

ライセンスは、Directory Server Enterprise Edition を使用して管理するエントリの数に基づいて提供されます。ライセンスが提供されたら、ディレクトリの実装によって最大限の柔軟性を得るために必要な回数だけエントリをレプリケートできます。唯一の条件は、レプリケートしたエントリを変更しないことと、レプリケート後のすべてのエントリを同じオペレーティングシステムに保存することです。レプリケートしたエントリを別のオペレーティングシステム上に保存した場合、それらのエントリについてライセンスを購入する必要が生じます。

Solaris 10 Update 5 のバージョンまでの Solaris ライセンスでは、ディレクトリサーバー用に 200,000 のエントリが無償で提供されていました。この場合、ライセンスはコアディレクトリサーバーコンポーネントのみが対象で、その他の Directory Server Enterprise Edition コンポーネントは対象ではありませんでした。今でも、コアディレクトリサーバーコンポーネントから完全な Directory Server Enterprise Edition へのアップグレードを購入できます。これらの 200,000 のディレクトリサーバー用のエントリのサポートを取得するために、Software Service Plan for Directory Server を購入する必要があります。Solaris Service Plan はこれらのエントリを対象としていません。

[http://www.sun.com/software/products/directory\\_srvr\\_ee/get.jsp](http://www.sun.com/software/products/directory_srvr_ee/get.jsp) から製品をダウンロードする前に、指定したバージョンの最新のライセンスを確認できます。

## ソフトウェアの入手

Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 ソフトウェアは次の場所からダウンロードできます。

[http://www.sun.com/software/products/directory\\_srvr\\_ee/get.jsp](http://www.sun.com/software/products/directory_srvr_ee/get.jsp)

このダウンロードページは、ダウンロードする必要がある配布の種類に応じて、適切なダウンロードに案内する開始点として機能します。Directory Server Enterprise Edition 7.0 は、次の配布形態で入手できます。

- ネイティブパッケージ配布 (Solaris のみ)
- ZIP 形式の配布パッケージ (すべてのプラットフォーム)

---

注 - Sun Identity Synchronization for Windows Version 6.0 をインストールする前に、技術的な注意事項を必ず確認してください。この技術的な注意事項では、Directory Server Enterprise Edition 7.0 に Identity Synchronization for Windows をインストールするための追加のインストール手順を説明しています。

Sun Identity Synchronization for Windows Version 6.0 は Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 にバンドルされていません。Identity Synchronization for Windows ソフトウェアは [http://www.sun.com/software/products/directory\\_srvr\\_ee/get.jsp](http://www.sun.com/software/products/directory_srvr_ee/get.jsp) からダウンロードできます。

---

## ハードウェア要件

この節では、Directory Server Enterprise Edition ソフトウェアのハードウェア要件を示します。

- 31 ページの「Directory Server Enterprise Edition のハードウェア要件」
- 32 ページの「Identity Synchronization for Windows のハードウェア要件」

## Directory Server Enterprise Edition のハードウェア要件

Directory Server Enterprise Edition ソフトウェアの動作には、次のハードウェアが必要です。

コンポーネント	プラットフォーム要件
RAM	1G ~ 2G バイト (評価目的の場合) 最小 4G バイト (本稼働サーバーの場合)

コンポーネント	プラットフォーム要件
ローカルディスク容量	<p>バイナリ用に 400M バイトのディスク容量。UNIX システムの場合、ネイティブパッケージからインストールされるバイナリはデフォルトで /opt に配置されます。評価目的の場合、サーバーソフトウェア用にさらに 2G バイトのローカルディスク容量を用意する必要があります。</p> <p>Directory Server を使用している場合、Directory Server に格納されるエントリがローカルディスク容量を使用することを考慮してください。Directory Server では、NFS マウントされたファイルシステム上にインストールされるログおよびデータベースはサポートされていません。ローカルファイルシステム上の /var/opt 内や /local 内などの領域に、データベースを収容するための十分な容量を確保する必要があります。一例として、最大で 250,000 個のエントリが存在し、写真などのバイナリ属性がない一般的な本稼働配備で、4G バイトがこの容量の目安となります。</p> <p>Directory Server は、ログファイル用に 1.2G バイトを超えるディスク容量を使用することがあります。4G バイトという記憶容量はデータベースに対してのみで、ログは含まれていないことに注意する必要があります。</p> <p>Directory Server は、SAN ディスク記憶装置をサポートしています。SAN ディスクを使用する前に、ディスクのレイアウトや設計を理解しておく必要があります。1 つのディスクから多数のアプリケーションが同時にデータアクセスした場合、システムの書き込みパフォーマンスに影響が出るからです。</p> <p>Directory Proxy Server では、NFS マウントされたファイルシステムへのインストールはサポートされていません。ローカルファイルシステム上の /var/opt 内や /local 内などの領域に、サーバーインスタンスとそのインスタンスによって使用されるすべてのファイルを収容できる十分な容量を確保する必要があります。</p> <p>Directory Proxy Server は、ログファイル用に 1.2G バイトを超えるディスク容量を使用することがあります。</p>

## Identity Synchronization for Windows のハードウェア要件

Identity Synchronization for Windows ソフトウェアの動作には、次のハードウェアが必要です。

コンポーネント	プラットフォーム要件
RAM	コンポーネントがインストールされるすべての場所に 512M バイト (評価目的の場合)。より多くの RAM を搭載したハードウェアを推奨します。



コンポーネント	プラットフォーム要件
ローカルディスク容量	400Mバイトのディスク容量 (最小構成、Directory Server との同時インストール時)。

## オペレーティングシステムの要件

この節では、Directory Server Enterprise Edition コンポーネント製品をサポートするために必要なオペレーティングシステム、パッチ、およびサービスパックを示します。

### Directory Server Enterprise Edition のオペレーティングシステム要件

Directory Server Enterprise Edition ソフトウェアの動作確認は、一覧中のオペレーティングシステムの「ベース」、「エンドユーザー」、または「コア」と呼ばれる限定構成ではなく完全インストールを使用して実施しています。一部のオペレーティングシステムでは、次の表に示されている追加のサービスパックまたはパッチが必要な場合があります。

Directory Server Enterprise Edition でサポートされている OS バージョン	サポートされている配布タイプ	必要な追加ソフトウェアとコメント
Solaris 10 U5 オペレーティングシステム (SPARC、64 ビット、および x64)	ネイティブパッケージおよび ZIP 形式の配布	<p>推奨されるパッチクラスタは次のサイトから入手できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ SPARC の場合、推奨されるパッチクラスタは次のサイトから入手できます。<a href="http://sunsolve.sun.com/pdownload.do?target=10_Recommended.zip">http://sunsolve.sun.com/pdownload.do?target=10_Recommended.zip</a></li> <li>■ x64 の場合、推奨されるパッチクラスタは次のサイトから入手できます。<a href="http://sunsolve.sun.com/pdownload.do?target=10_x86_Recommended.zip">http://sunsolve.sun.com/pdownload.do?target=10_x86_Recommended.zip</a></li> </ul>

Directory Server Enterprise Edition でサポートされている OS バージョン	サポートされている配布タイプ	必要な追加ソフトウェアとコメント
Solaris 9 オペレーティング システム (SPARC、64 ビット、および x86)	ネイティブパッケージお よび ZIP 形式の配布	推奨されるパッチクラスタは次のサイトか ら入手できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ SPARC の場合、推奨されるパッチクラ スタは次のサイトから入手できま す。<a href="http://sunsolve.sun.com/pdownload.do?target=9_Recommended.zip">http://sunsolve.sun.com/ pdownload.do?target=9_Recommended.zip</a></li> <li>■ x86 の場合、推奨されるパッチクラ スタは次のサイトから入手できま す。<a href="http://sunsolve.sun.com/pdownload.do?target=9_x86_Recommended.zip">http://sunsolve.sun.com/ pdownload.do?target=9_x86_Recommended.zip</a></li> </ul>
Solaris 10 U5 Trusted Extension オペレーティ ングシステム (SPARC、64 ビット、および x64)	ネイティブパッケージお よび ZIP 形式の配布	推奨されるパッチクラスタは次のサイトか ら入手できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ SPARC の場合、推奨されるパッチクラ スタは次のサイトから入手できま す。<a href="http://sunsolve.sun.com/pdownload.do?target=10_Recommended.zip">http://sunsolve.sun.com/ pdownload.do?target=10_Recommended.zip</a></li> <li>■ x64 の場合、推奨されるパッチクラ スタは次のサイトから入手できま す。<a href="http://sunsolve.sun.com/pdownload.do?target=10_x86_Recommended.zip">http://sunsolve.sun.com/ pdownload.do?target=10_x86_Recommended.zip</a></li> </ul>
OpenSolaris 2009.06 オペ レーティングシステム (SPARC、64 ビット、およ び x64)	ZIP 形式の配布	追加のパッチは不要です。
Red Hat Enterprise Linux 5 U3 オペレーティングシ ステム (x64)	ZIP 形式の配布	追加のパッチは不要です。
Red Hat Enterprise Linux 4 Enterprise Server および Advanced Server U8 オペ レーティングシステム (x64 および x86)	ZIP 形式の配布	追加のパッチは不要です。
SuSE Linux Enterprise Server 10 U2 オペ レーティングシステム (x32)	ZIP 形式の配布	追加のパッチは不要です。

Directory Server Enterprise Edition でサポートされている OS バージョン	サポートされている配布タイプ	必要な追加ソフトウェアとコメント
SUSE Linux Enterprise Server 10 U2 オペ レーティングシステム (x64)	ZIP 形式の配布	追加のパッチは不要です。
HP-UX 11iv2 PA-RISC (64 ビット)	ZIP 形式の配布	追加のパッチは不要です。
Microsoft Windows Server 2003 Standard Edition (x86 および x64)	ZIP 形式の配布	Service Pack 2
Microsoft Windows Server 2003 Enterprise Edition (x86 および x64)	ZIP 形式の配布	Service Pack 2
Microsoft Windows Server 2008 Standard Edition (x86 および x64)	ZIP 形式の配布	Service Pack 1
Microsoft Windows Server 2008 Enterprise Edition (x86 および x64)	ZIP 形式の配布	Service Pack 1

- Microsoft Windows のすべてのサポートされているバージョンで、Directory Server と Directory Proxy Server は 32 ビットモードでのみ動作し、ファイルシステムタイプは NTFS である必要があります。
- Directory Server Enterprise Edition 7.0 の 32 ビット版は、Microsoft Windows 以外の 64 ビットプラットフォームではサポートされていません。
- サポートされているプラットフォームで新しいサービスパックやアップデートがリリースされた場合、Directory Server Enterprise Edition 7.0 はそれらもサポートします。

SUSE Linux Enterprise Server にインストールするには、いくつかの Java 環境変数を再設定する必要があります。詳細については、『[Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 Installation Guide](#)』を参照してください。

Directory Server Enterprise Edition は Java 1.6 を提供し、Java 1.5 と 1.6 の両方をサポートします。

## Identity Synchronization for Windows のオペレーティングシステム要件

Identity Synchronization for Windows コンポーネントは、次の表に示すバージョンの各種オペレーティングシステム上で動作します。一部のオペレーティングシステムでは、次の表に示されている追加のサービスパックまたはパッチが必要な場合があります。

Identity Synchronization for Windows のサポートされている OS のバージョン	必要な追加ソフトウェアとコメント
Solaris 10 オペレーティングシステム (SPARC、x86、および AMD x64 アーキテクチャー)	<p>パッチ:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ SPARC の場合、推奨されるパッチクラスタは次のサイトから入手できます。 <a href="http://sunsolve.sun.com/pdownload.do?target=10_Recommended.zip">http://sunsolve.sun.com/pdownload.do?target=10_Recommended.zip</a></li> <li>■ x64 の場合、推奨されるパッチクラスタは次のサイトから入手できます。 <a href="http://sunsolve.sun.com/pdownload.do?target=10_x86_Recommended.zip">http://sunsolve.sun.com/pdownload.do?target=10_x86_Recommended.zip</a></li> </ul>
Solaris 9 オペレーティングシステム (SPARC および x86 アーキテクチャー)	<p>パッチ:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ SPARC の場合、推奨されるパッチクラスタは次のサイトから入手できます。 <a href="http://sunsolve.sun.com/pdownload.do?target=9_Recommended.zip">http://sunsolve.sun.com/pdownload.do?target=9_Recommended.zip</a></li> <li>■ x86 の場合、推奨されるパッチクラスタは次のサイトから入手できます。 <a href="http://sunsolve.sun.com/pdownload.do?target=9_x86_Recommended.zip">http://sunsolve.sun.com/pdownload.do?target=9_x86_Recommended.zip</a></li> </ul>
Red Hat Enterprise Linux Advanced Server 4.0 Update 2 (x86 および AMD x64)	<p>次の互換性ライブラリを推奨:</p> <p><code>compat-gcc-32-3.2.3-47.3.i386.rpm</code></p> <p><code>compat-gcc-32-c++-3.2.3-47.3.i386.rpm</code></p> <p>次の互換性ライブラリが必要:</p> <p><code>compat-libstdc++-33-3.2.3-47.3.rpm</code></p> <p>Red Hat を 64 ビットのシステム上で実行している場合でも、32 ビットのシステムライブラリがインストールされます。</p> <p>これらの互換性ライブラリは、Red Hat のメディアまたは <a href="https://www.redhat.com/rhn/rhndetails/update/">https://www.redhat.com/rhn/rhndetails/update/</a> から入手できます。</p>
Microsoft Windows 2003 Server Standard Edition	Service Pack 1

Identity Synchronization for Windows のサポートされている OS のバージョン	必要な追加ソフトウェアとコメント
Microsoft Windows 2003 Server Enterprise Edition	Service Pack 1

注 - SUSE または HP-UX システムでは Identity Synchronization for Windows はサポートされていません。

## ソフトウェア依存関係の要件

- 37 ページの「Directory Server Enterprise Edition のソフトウェア依存関係の要件」
- 38 ページの「Directory Service Control Center でサポートされているアプリケーションサーバー」
- 38 ページの「サポートされている JDBC データソース」
- 38 ページの「Directory Service Control Center でサポートされるブラウザ」
- 39 ページの「ファイアウォール環境での Identity Synchronization for Windows および Directory Server プラグインの要件」
- 39 ページの「Identity Synchronization for Windows のソフトウェア依存関係の要件」
- 40 ページの「ファイアウォール環境での Identity Synchronization for Windows の要件」

## Directory Server Enterprise Edition のソフトウェア依存関係の要件

ソフトウェア依存関係の重要な要件は以下のとおりです。

- Directory Server は暗号化アルゴリズムをネットワークセキュリティーサービス (NSS) レイヤーに依存します。NSS は、Solaris 10 システム上で提供され、暗号化促進デバイスをサポートする Sun 暗号化フレームワークとの組み合わせで正しく機能することが確認されています。
- Microsoft Windows システムでは、Directory Service Control Center が正しく動作するようにするために、ポップアップブロックを無効にする必要があります。
- Directory Proxy Server は、どの LDAPv3 準拠のディレクトリサーバーでも動作できますが、Directory Server でしかテストされていません。
- Solaris 10 では、`rc.scripts` が推奨されないため、`dsadm autostart` などのコマンドはサポートされていません。これらのタイプの要求を処理するには、代わりに Solaris 10 Service Management Facility (SMF) を使用します。たとえば、`dsadm enable-service` などです。SMF の詳細については、Solaris オペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。

## Directory Service Control Center でサポートされているアプリケーションサーバー

Directory Service Control Center は次のアプリケーションサーバーをサポートします。

- Sun Java System Application Server 9.1
- GlassFish 2.1
- Tomcat 5.5 および 6.0
- Sun Java System Web Server 7.0
- BEA WebLogic Server 10.0

詳細については、『[Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 Installation Guide](#)』の付録 A 「[Deploying DSCC WAR File With Supported Application Servers](#)」を参照してください。

## サポートされている JDBC データソース

仮想化については、Directory Proxy Server は、次に示すドライバを使用して、次の JDBC データソースで検証されています。ただし、Directory Proxy Server はすべての JDBC 3 準拠のドライバで動作します。

---

JDBC データソース	JDBC ドライバ
DB2 v9	IBM DB2 JDBC Universal Driver Architecture 2.10.27
Microsoft SQL Server 2005	sqljdbc.jar 1.2.2323.101
MySQL 5.x	MySQL-AB JDBC ドライバ mysql-connector-java-5.0.4
Oracle 10g Database	Oracle JDBC ドライバ 10.2.0.2.0 (詳細は、 <a href="#">71 ページの「Directory Proxy Server 7.0 の制限事項」</a> を参照)
JavaDB 10.5.3.0	Apache Derby Network Client JDBC ドライバ 10.5.3.0

---

## Directory Service Control Center でサポートされるブラウザ

次の表に、Directory Service Control Center をサポートするブラウザをオペレーティングシステムごとに示します。

オペレーティングシステム	サポートされるブラウザ
Solaris 10 および Solaris 9 (SPARC および x86)	Firefox 2 および 3
Red Hat Linux および SUSE Linux	Firefox 2 および 3
Windows 2003/2008	Microsoft Internet Explorer 6 および 7、Firefox 2 および 3

## ファイアウォール環境での Identity Synchronization for Windows および Directory Server プラグインの要件

各 Directory Server プラグインが、Directory Server コネクタのサーバーポート (コネクタのインストール時に選択したもの) と通信できる必要があります。Directory Server マスターレプリカで動作するプラグインは、Active Directory の LDAP ポート (389) または LDAPS ポート (636) に接続できる必要があります。その他の Directory Server レプリカで動作するプラグインは、マスター Directory Server の LDAP ポートおよび LDAPS ポートと通信できる必要があります。

## Identity Synchronization for Windows のソフトウェア依存関係の要件

Identity Synchronization for Windows をインストールする前に、JRE や Message Queue を含め、前提条件の Sun ソフトウェアコンポーネントをインストールする必要があります。

- Identity Synchronization for Windows には JRE は付属しません。Identity Synchronization for Windows インストーラの動作には J2SE または JRE 1.5.0\_09 が必要です。
- このリリースの Identity Synchronization for Windows には、Directory Server Enterprise Edition のコンテキストにライセンスが制限された Message Queue 3.6 がバンドルされています。

Identity Synchronization for Windows をインストールする場合は、使用するバージョンの Message Queue へのパスを指定する必要があります。それにより、Identity Synchronization for Windows インストールプログラムは、Identity Synchronization for Windows が Message Queue を使用して同期できるように、必要なブローカを Message Queue にインストールします。

Windows システムでは、Identity Synchronization for Windows は Message Queue 3.6 のみをサポートしています。そのため、Identity Synchronization for Windows にバンドルされている Message Queue 3.6 をインストールしてください。

ただし、Message Queue 3.7 は Java Enterprise System 共有コンポーネントとしてインストールされます。そのため、結果として Windows システム上で、Message Queue 3.6 と Message Queue 3.7 の両方がインストールされる可能性があります。Java Enterprise System コンポーネントを Identity Synchronization for Windows とともに Windows システムにインストールする場合は、Message Queue を選択しないようにしてください。

## ファイアウォール環境での Identity Synchronization for Windows の要件

Identity Synchronization for Windows はファイアウォール環境での実行が可能です。次の各節では、ファイアウォールを通して公開する必要があるサーバーポートの一覧を示しています。

### Message Queue の要件

Message Queue はデフォルトで、そのポートマッパーを除くすべてのサービスに対して動的ポートを使用します。ファイアウォールを通して Message Queue ブローカにアクセスする場合、すべてのサービスに対して固定ポートを使用するようにブローカを設定してください。

コアのインストール後、ブローカの設定プロパティー `imq.<service_name>.<protocol_type>.port` を設定する必要があります。特に、`imq.ssljms.tls.port` オプションを設定する必要があります。詳細については、Message Queue のマニュアルを参照してください。

### インストーラの要件

Identity Synchronization for Windows インストーラは、設定ディレクトリとして機能している Directory Server と通信できる必要があります。

- Active Directory コネクタをインストールする場合、インストーラが Active Directory の LDAP ポート (389) と通信できる必要があります。
- Directory Server コネクタまたは Directory Server プラグイン (サブコンポーネント) をインストールする場合、インストーラが Directory Server の LDAP ポート (デフォルトで 389) と通信できる必要があります。

### コアコンポーネントの要件

Message Queue、システムマネージャー、およびコマンド行インタフェースが、Identity Synchronization for Windows の設定が保存された Directory Server と通信できる必要があります。



## コンソールの要件

Identity Synchronization for Windows コンソールが、次に示すコンポーネントと通信できる必要があります。

- Active Directory (LDAP 経由の場合ポート 389、LDAPS 経由の場合ポート 636)
- Active Directory グローバルカタログ (LDAP 経由の場合ポート 3268、LDAPS 経由の場合ポート 3269)
- 各 Directory Server (LDAP または LDAPS 経由)
- 管理サーバー
- Message Queue

## コネクタの要件

すべてのコネクタが Message Queue と通信できる必要があります。

加えて、コネクタに関する次の要件が満たされている必要があります。

- Active Directory コネクタが、LDAP 経由 (ポート 389) または LDAPS 経由 (ポート 636) で Active Directory ドメインコントローラにアクセスできる必要があります。
- Directory Server コネクタが、LDAP 経由 (デフォルトポート 389) または LDAPS 経由 (デフォルトポート 636) で Directory Server インスタンスにアクセスできる必要があります。

# インストールに必要な特権と資格

この節では、Directory Server Enterprise Edition コンポーネント製品のインストールに必要な特権および資格について説明します。

- [41 ページの「Directory Server Enterprise Edition のインストールに必要な特権」](#)
- [42 ページの「Identity Synchronization for Windows のインストールに必要な特権と資格」](#)

## Directory Server Enterprise Edition のインストールに必要な特権

Solaris システムにネイティブパッケージベースの配布から Directory Server Enterprise Edition をインストールする場合、root 特権でインストールを行う必要があります。

ZIP 形式の配布パッケージから Directory Server Enterprise Edition をインストールする場合には、特別な特権は必要ありません。詳細は、『[Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 Installation Guide](#)』を参照してください。

## Identity Synchronization for Windows のインストールに必要な特権と資格

Identity Synchronization for Windows をインストールするには、次のコンポーネントに対する資格情報を用意する必要があります。

- 設定 Directory Server。
- 同期対象の Directory Server。
- Active Directory。  
詳細については、『[Sun Java System Identity Synchronization for Windows 6.0 Installation and Configuration Guide](#)』の第3章「Installing Core」を参照してください。

加えて、Identity Synchronization for Windows をインストールするには次の特権が必要です。

- Solaris および Red Hat システムでは、root 特権でインストールを行う必要があります。
- Windows システムでは、Administrator 特権でインストールを行う必要があります。

---

注-テキストベースのインストーラを使用してパスワードを入力するとき、パスワードはプログラムによって自動的にマスクされ、そのまま画面に表示されることはありません。テキストベースのインストーラは Solaris および Red Hat システムでのみサポートされています。

---

## Identity Synchronization for Windows のインストールに関する注意事項

Identity Synchronization for Windows を新規インストールする前に、必ず『[Sun Java System Identity Synchronization for Windows 6.0 Installation and Configuration Guide](#)』の第2章「Preparing for Installation」をお読みください。

## Windows Server 2003 での Identity Synchronization for Windows の使用

Windows Server 2003 では、デフォルトのパスワードポリシーで強力なパスワードが要求されますが、これは Windows 2000 におけるデフォルトのパスワードポリシーと異なります。

# Directory Server の修正されたバグと既知の問題点

---

この章では、Directory Server のリリース時に入手可能な製品固有の重要情報が含まれています。

この章では、次の内容について説明します。

- 43 ページの「Directory Server 7.0 で修正されたバグ」
- 51 ページの「Directory Server の既知の問題点と制限事項」

## Directory Server 7.0 で修正されたバグ

この節では Directory Server の前回のリリースから修正されたバグの一覧を示します。

表 4-1 Directory Server 7.0 で修正されたバグ

バグ ID	説明
4987124	エントリの UID は一意である必要はありません。
5087249	tcp_keepalive_interval および tcp_ip_abort_interval 属性の設定にかかわらず、ネットワーク接続が確立されたままになります。
6192090	insync コマンドは、ホスト指定にアットマーク (@) が含まれている場合、提供されたホスト指定を解析できません。
6250000	nsuniqueid の一意ではない値がレプリケーショントポロジに追加できるため、レプリケーションが失敗する場合があります。
6283810	ldapmodify コマンドを使用して属性を削除すると、レプリケーションが失敗する場合があります。
6292310	エントリの RDN とエントリの親の属性値を同時に変更すると、ディレクトリサーバーがデッドロック状態になります。

表 4-1 Directory Server 7.0 で修正されたバグ (続き)

バグ ID	説明
6295323	仮想属性を返す検索で、メモリーリークが発生します。
6340125	更新ログの作成と読み取りを同時に行うと、ディレクトリサーバーが失敗する場合があります。
6341382	SASL セキュリティーが有効になっている場合、読み込みエラーが発生する場合があります。
6356373	間接サービスクラス機能が、ドキュメントの内容と異なり複数のテンプレートをサポートしていません。
6382134	サービスクラスが設定されている場合、 <code>ldapcompare</code> コマンドが失敗する場合があります。
6386671	<code>ou=groups</code> に重複したデータを含めることができます。
6479754	ドキュメントの内容と異なり、SSL を設定したあとにレプリケーションが失敗する場合があります。
6490419	<code>ldapsearch</code> コマンドが一貫性のない結果を返す場合があります。
6497556	Windows インストールで、 <code>dsadm info</code> コマンドが <code>ns-slapd</code> の誤った所有者を表示する場合があります。
6498501	HP-UX インストールで、監視プラグインが有効になっている場合、 <code>dsadm stop</code> および <code>restart</code> コマンドの動作に一貫性がない場合があります。
6499077	登録されていないサフィックスに余分な文字が含まれている場合に警告メッセージが表示されます。
6500908	ローカライズされた文字を含む名前を持つ証明書が正しく一覧表示または削除されません。
6504891	<code>dsadm autostart</code> コマンドが誤ったエラーメッセージを返す場合があります。
6506019	HP-UX インストールで、GNU デバッガ (GDB) が <code>ns-slapd</code> プロセスを解放すると、ディレクトリサーバーが失敗する場合があります。
6536777	UNIX インストールで、レプリケーショントポロジの描画を有効にするには、Sun Java System Application Server の JVM を <code>-Djava.awt.headless=true</code> で開始する必要があります。
6542953	複数の ZIP インストールがすべての CACAO ポートを正しく管理しません。
6548467	以前の接続が開いたままになっている場合、DSCC にその URL を通じてアクセスできません。
6550543	DSCC は Java 1.6 とともに実行するとエラーを返す場合があります。
6551672	Sun Java System Application Server は「Unable to create SASL client conn for auth mechanism」メッセージを返し、CACAO と通信できません。

表 4-1 Directory Server 7.0 で修正されたバグ (続き)

バグ ID	説明
6557499	JESMF を登録および配備すると、終了したプロセスが作成されます。
6561787	DSCC は <code>dsinstancemain.confirmreadonly</code> を誤って解析します。
6562921	Windows サービス管理に渡されたデータの大きい文字小文字は正しく維持される必要があります。
6572853	サービスクラス統計モニターが誤った結果を表示します。
6579286	Windows インストールで、 <code>PATH</code> 環境変数にディレクトリが存在しないため、 <code>dsrepair</code> コマンドが失敗します。
6579820	Windows インストールで、 <code>plcheck</code> コマンドが失敗します。
6582585	DSCC は、インスタンスパスに複数バイトの文字が含まれている場合に、ログファイルにアクセスできません。
6586725	SSL 上のマルチマスターレプリケーションでメモリーリークが発生します。
6593775	DSCC がすべてのサフィックスを表示しません。
6594285	DSCC が RBAC をサポートできません。
6617936	<code>repldisc</code> コマンドで、SSL 上でレプリカに接続する際にエラーが発生した場合、資格が適切に処理されません。
6620846	対話型モードでの <code>repldisc</code> コマンドはホスト名およびポート番号を要求するべきではありません。
6620851	対話型モードでの <code>repldisc</code> コマンドは接続できないレプリカを要求するべきではありません。
6634048	リバーシブルパスワードプラグインの外部利用が原因で、レプリケーションが失敗する場合があります。
6640806	インデックスの再生成が完了するまでに必要な時間が長すぎます。
6641259	DSCC が、「レプリケーション設定」タブについての誤ったメッセージを表示します。
6642364	レプリケートされた監査ログにパスワードポリシーの更新がいくつか表示されますが、ローカルの監査ログには表示されません。
6644137	DSCC は、サフィックスのプロモート/デモート機能についての誤ったメッセージを表示します。
6644368	<code>repldisc</code> コマンドがホスト名の正しい比較に失敗します。
6645742	既知のユーザーが誤ったパスワードでログインに失敗したあと、バージョンの異なるサーバー間でレプリケーションが停止します。

表 4-1 Directory Server 7.0で修正されたバグ (続き)

バグ ID	説明
6646794	複数の targetattr 値が選択されている場合、DSCC ACI ウィザードが不正な ACI を生成します。
6650039	レプリケーションが正常に停止した場合、レプリケーションマスターが失敗する場合があります。
6651645	pwdReset が true に設定されている場合、プロキシ承認を通じてパスワードを変更できません。
6659728	アクセスログが有効になっている場合、パフォーマンスが低下する場合があります。
6662669	dsconf set-log-prop コマンドがログファイルに対するアクセス権をすぐに変更しません。
6663553	ACI 文字列の余分なスペースが、ACI の誤った評価の原因になる場合があります。
6670977	DSCC は長い ACI の表示に失敗します。
6675384	複雑なサービスクラスの配備が原因で、ディレクトリサーバーが失敗する場合があります。
6680142	複数のテキストファイルで訂正が必要です。
6680718	ローテーションがデッドロックになる場合があります。
6683182	passwordMaxAge の値を大きく設定していても、ユーザーパスワードが期限切れになる場合があります。
6683870	DSCC は、バイナリ属性を持つエントリを、変更中に壊す場合があります。
6684993	特定の状況下で、パスワードポリシー属性 pwdMinLength が実施されません。
6686131	DSCC は一部のリンクを誤って表示します。
6686199	uniqueness-among-attribute-set プラグインが設定されている場合、ディレクトリサーバーが失敗する場合があります。
6686632	操作前のプラグインが、エントリの削除前にアクセス制御チェックを実行した場合、ディレクトリサーバーが失敗します。
6687304	DSCC によってクライアント認証に加えられた変更が、ディレクトリサーバーを再起動するまで有効になりません。
6688454	パススルー認証によって、ディレクトリサーバーを正常に停止できない場合があります。
6688891	監査ログに古いパスワードが含まれます。
6689290	ディレクトリサーバーを起動および停止した場合、DSCC が誤ったメッセージテキストを表示する場合があります。

表 4-1 Directory Server 7.0 で修正されたバグ (続き)

バグ ID	説明
6689454	データベースが復元され、そのバックアップに非常に大きな更新履歴ログが含まれている場合、エラーが発生する場合があります。
6690684	特定の IP アドレスにバインドされているサーバーインスタンスの登録に失敗する場合があります。
6700232	更新履歴ログにアクセスした場合、ディレクトリサーバーがデッドロックになる場合があります。
6704259	レプリケーション操作に必要な時間が長すぎます。
6704261	マルチパス LDIF インポート操作によって、誤ったインデックスが生成される場合があります。
6704754	許可された値として一覧表示されているにもかかわらず、ログ記録プロパティ <code>rotation-time</code> を <code>undefined</code> に設定できません。
6705319	DSCC はリフェラルを完全に無効にしません。
6706009	DSCC は、エントリを編集している場合にサブタイプ属性を正しく処理しません。
6707089	ディレクトリサーバーは、ACI の評価中に失敗する場合があります。
6707164	データベースのバイナリ復元によって、レプリケーション更新履歴ログが再生成されます。
6708194	DSCC は、時間に基づいたログローテーションを設定したり、削除ポリシーを「Do Not Automatically Rotate/Delete」に設定したりできません。
6708615	インデックスの生成が有効な状態でサーバーを停止すると、ディレクトリサーバーが失敗します。
6711123	頻繁に更新されないマスターが更新を受け取った場合、バックアップおよびエクスポートのファイルが無効になる場合があります。
6712614	<code>starttls</code> コマンドが低速で実行されます。
6715303	仮想属性の値を取得すると、ディレクトリサーバーが失敗します。
6715911	サフィックスの名前にバックスラッシュ (\) が含まれている場合、最上位エントリで新しいサフィックスを作成するとディレクトリサーバーが失敗する場合があります。
6716661	<code>repl-schedule</code> プロパティは複数値であるべきです。
6717507	レプリケーションを有効にすると、VLV インデックスが誤って更新される場合があります。
6718308	データベースを復元する場合、DSCC はすべてのメッセージを記録しません。
6723208	<code>mailSieveRuleSource</code> がユーザーを更新する場合、DSCC によってこの属性が破壊されます。

表 4-1 Directory Server 7.0で修正されたバグ (続き)

バグ ID	説明
6726890	更新履歴ログの調整が正しく行われな場合があります。
6731941	同時パススルー認証の数を制限できません。
6735966	Windows インストールで、暗号化が無効に設定されている場合、負荷がかかるとディレクトリサーバーが失敗する場合があります。
6736172	ディレクトリサーバーは cACertificate および crossCertificatePair プロパティを2度追加できます。
6737227	DNの正規化中、負荷がかかるとディレクトリサーバーが失敗する場合があります。
6739300	大きなスタティックグループを管理している場合、旧バージョン形式の更新履歴ログのサイズが非常に大きくなる場合があります。
6740791	パスワードポリシーがサービスクラスに割り当てられたユーザーを作成する場合、ディレクトリサーバーでメモリーリークが発生する場合があります。
6742347	Windows インストールで、ディレクトリサーバーがサービスとして登録されている場合、シャットダウン中に停止しません。
6746125	ldapsearch コマンドは、存在しないサブタイプで certificateRevocationList の検索を実行すると、間違った結果を返す場合があります。
6746574	有効に設定している場合、nsslapd-return-exact-case が certificateRevocationList の場合に正しく動作しません。
6748713	ディレクトリサーバーが、idletimeout が経過する前に接続を閉じる場合があります。
6750238	Windows インストールでは、システムリブート後にディレクトリサーバーが最初に再起動を試みると、システムイベント ID 7022 によって再起動が失敗する場合があります。
6750240	des-plugin.so が署名されていません。
6751358	優先順位を指定したレプリケーションが指定したとおりに動作しません。
6751952	更新を今すぐ送信する操作が実行された場合、レプリケーションが停止して再開します。
6752586	Identity Synchronization for Windows プラグインが開始しません。
6752738	エクスポートされた LDIF にエントリのレプリカ更新ベクトルが含まれる場合があります。
6753742	マルチマスターレプリケーショントポロジの更新が失敗する場合があります。
6755852	ディレクトリサーバーが、一部の日本語版 Windows システムにインストールできません。
6756240	ポーリングの問題が原因で、ディレクトリサーバーが失敗する場合があります。



表 4-1 Directory Server 7.0 で修正されたバグ (続き)

バグ ID	説明
6759200	SASL へのバインドが原因で、ディレクトリサーバーが失敗する場合があります。
6759886	マルチマスタートポロジ内で DEL 操作がレプリケートされ、コンシューマの監査ログで <code>modifiersname</code> が誤って記録されます。
6763091	ロールを通じてユーザーエントリに割り当てられたパスワードポリシーが、ディレクトリサーバーを再起動するまで有効になりません。
6764616	サフィックス名にスペースが含まれている場合、レプリケーションが失敗する場合があります。
6768405	<code>dsconf</code> コマンドがハイフン (-) を正しく処理しません。
6771728	MOD CSN (変更シーケンス番号) が以前の ADD CSN よりも小さい場合、レプリケーションが失敗する場合があります。
6772760	ディレクトリサーバーを起動した直後に停止すると、ディレクトリサーバーが失敗する場合があります。
6772870	<code>ds-polling-thread-count</code> が 1 より大きい場合に、コンシューマが同期されなくなる場合があります。
6772918	<code>dsconf info</code> コマンドが、ディレクトリサーバーのバージョン番号を常に検出できるとは限りません。
6773132	対象のファイルシステムがいっぱいだと <code>dsconf export</code> コマンドが失敗した場合、エラーが記録されません。
6777643	<code>insync</code> 操作が失敗する場合があります。
6779940	インデックスの <code>dsconf matching-rule</code> プロパティは複数値であるべきです。
6779962	<code>dsadm export</code> コマンドは照合プラグインのマッチングルールのインデックスを生成できません。
6783425	複雑なフィルタを処理している場合に <code>searchrate</code> コマンドが失敗する場合があります。
6789448	<code>pwd-accept-hashed-pwd-enabled</code> プロパティを設定した場合に、エラーが発生する場合があります。
6790060	インデックスを使用しない検索を実行中、ACI 評価に必要な時間が長すぎる場合があります。
6791372	<code>authrate</code> コマンドを実行中に、ディレクトリサーバーが失敗する場合があります。
6793557	DSML プラグインが壊れた DSML メッセージを受け取った場合、ディレクトリサーバーが失敗する場合があります。
6796266	<code>memberof</code> プラグインが完全にロードされていない場合、ディレクトリサーバーを停止するとディレクトリサーバーが失敗する場合があります。

表 4-1 Directory Server 7.0 で修正されたバグ (続き)

バグ ID	説明
6797187	dsadm add-selfsign-cert コマンドによって、自己矛盾のある証明書がデータベースに追加されます。
6798026	Windows インストールで、ディレクトリサーバーが検索操作中にクラッシュする場合があります。
6806271	マルチマスターレプリケーショントポロジで、ディレクトリサーバーは、8 個より多い値を持つ属性の重複した値の検出に失敗する場合があります。
6809149	データベースエラーからの復旧が原因で、ヒープが壊れる場合があります。
6821682	dsconf コマンドが dsml-min-parser-count および dsml-max-parser-count プロパティを正しく処理しません。
6827661	一部の Windows インストールで、dsadm stop コマンドによってディレクトリサーバーが停止しません。
6834291	プラグイン操作の順序を変更する必要があります。
6835539	特別なパスワードポリシーを作成または変更すると、DSCC でエラーが発生する場合があります。
6835550	マルチマスターレプリケーショントポロジで、レプリカのインポート後にレプリケーションが失敗する場合があります。
6837200	更新履歴ログの調整スレッドが原因で、ディレクトリサーバーが起動時に失敗する場合があります。
6837808	変更操作中の ACI 評価によって、ヒープが壊れる場合があります。
6846693	新規エントリのインポート後に、ディレクトリサーバーがクラッシュする場合があります。
6846934	ip キーワードのある ACI が正しく評価されない場合があります。
6849485	バインドパスワードの変更が必要な場合、DSML の検索中にサーバーがクラッシュすることがあります。
6849928	インポートが、レプリカの正常な作成に失敗する場合があります。
6850042	ディレクトリサーバーの ZIP 形式の配布は、デフォルト以外のポート番号を使用するべきです。
6850537	検索要求は、RFC 4522 に従ってバイナリ属性を返すべきです。
6851491	ディレクトリサーバーはサービスクラスの操作中にクラッシュする場合があります。
6852119	レプリケーションメタデータのある LDIF をインポートするときに、メモリーリークが発生する場合があります。
6853884	dsmig migrate-config コマンドによって、強力なパスワードチェックプラグインの設定警告を記録します。

# Directory Server の既知の問題点と制限事項

この節では、リリース時点での既知の問題点および制限事項の一覧を示します。

## Directory Server 7.0 の制限事項

ファイルアクセス権を手作業で変更した場合の問題点

インストール済みの Directory Server Enterprise Edition 製品ファイルのアクセス権を変更すると、場合によってはソフトウェアが正常に動作しなくなる可能性があります。製品ドキュメントの指示に従う場合、または Sun サポートの指示に従う場合のみ、ファイルのアクセス権を変更してください。

この制限事項に対処するには、適切なユーザーアクセス権およびグループアクセス権を持つユーザーとして製品のインストールおよびサーバーインスタンスの作成を行います。

cn=changelog サフィックスをレプリケートした場合の問題点

cn=changelog サフィックスのレプリケーションを設定することは可能ですが、実際に設定するとレプリケーションに干渉する可能性があります。cn=changelog サフィックスをレプリケートしないでください。cn=changelog サフィックスは、旧バージョン形式の更新履歴ログのプラグインによって作成されます。

LD\_LIBRARY\_PATH に /usr/lib が含まれる場合に誤った SASL ライブラリがロードされる

LD\_LIBRARY\_PATH に /usr/lib が含まれている場合に、誤った SASL ライブラリが使用され、インストール後に dsadm コマンドが失敗する原因となります。

cn=config 属性の変更には LDAP の置換操作を使用する

cn=config に対する LDAP の変更操作では、置換サブ操作のみを使用できます。属性を追加または削除しようとする、操作は拒否され、エラー 53 (DSA is unwilling to perform) が返されます。Directory Server 5 では、属性または属性値の追加または削除が可能でしたが、値の検証を経ることなく dse.ldif ファイルに更新が適用され、DSA の内部状態は DSA を停止して再開するまで更新されませんでした。

---

注 - cn=config 設定インタフェースは非推奨となっています。可能な場合は、代わりに dsconf コマンドを使用してください。

---

この制限への対処として、追加または削除サブ操作の代わりに、LDAP の変更操作の置換サブ操作を代用することができます。機能面での支障は発生しません。また、変更後の DSA 設定の状態が予想しやすくなります。

Windows システムで Directory Server が Start TLS 操作をデフォルトで許可しない  
この問題点は、Windows システム上のサーバーインスタンスのみに影響します。この問題の原因は、Start TLS 操作を使用するときの Windows システム上のパフォーマンスです。

この問題に対処するには、`dsconf` コマンドで `-P` オプションを指定し、SSL ポートを直接使用して接続することを検討してください。別の方法として、ネットワーク接続がすでにセキュリティー保護されている場合は、`dsconf` コマンドの `-e` オプションの使用を検討してください。このオプションにより、セキュリティー保護された接続を要求せずに標準ポートに接続できます。

存在しないサーバーをレプリケーション更新ベクトルが参照する場合がある  
レプリケートした Directory Server インスタンスをレプリケーショントポロジから削除したあとも、レプリケーション更新ベクトルがそのインスタンスへの参照を維持し続けることがあります。結果として、存在しなくなったインスタンスへのリフェラルが発生する可能性があります。

共通エージェントコンテナがブート時に開始しない  
この問題点に対処するには、ネイティブパッケージからのインストール時に `root` 権限で `cacaoadm enable` コマンドを使用してください。

Windows 上でこの問題点に対処するには、共通エージェントコンテナサービスのプロパティから「ログオン」を選択し、サービスを実行するユーザーのパスワードを入力し、「適用」を押します。まだこの設定を行っていない場合は、アカウント `user name` に「サービスとしてログオン」権利が付与されていることを示すメッセージが表示されます。

`max-thread-per-connection-count` が Windows システムで正しく機能しない  
Directory Server の設定プロパティ `max-thread-per-connection-count` および `ds-polling-thread-count` は、Windows システムには適用されません。

Windows XP 上で、Administrator アカウントで、コンソールにログインできない  
Windows XP 上で実行しているコンソールに Administrator アカウントでログインできません。

この問題に対処するには、ゲストアカウントを無効にして、レジストリキー `HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Lsa\ForceGuest` を `0` に設定してください。

オンザフライでインデックス構成を変更する  
ある属性のインデックス構成を変更すると、フィルタとしてその属性を含むすべての検索は、インデックスが生成されていないものとして処理されます。この属性を含む検索を正しく処理するには、`dsadm reindex` または `dsconf reindex` コマンドを使用して、属性のインデックス構成を変更するたびに既存のインデックスを再生成します。詳細については、『[Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 Administration Guide](#)』の第 12 章「[Directory Server Indexing](#)」を参照してください。

PTA サーバー上で接続および操作の数を強制できない

接続の最大数 (maxconns) および操作の最大数 (maxops) が PTA サーバー上で強制できません。

ZIP 形式の配布でインストールした場合、Directory Server は共通エージェントフレームワーク (CACAO) のデフォルトとしてポート 21162 を使用する

共通エージェントフレームワーク (CACAO) のデフォルトポートは 11162 です。ネイティブ配布でインストールした場合、Directory Server はこのデフォルトポートを使用します。しかし、ZIP 形式の配布でインストールした場合、Directory Server はデフォルトでポート 21162 を使用します。DSCC でサーバーインスタンスを作成または登録する場合、正しいポート番号を指定する必要があります。

## Directory Server 7.0 の既知の問題点

この節では、Directory Server 7.0 のリリース時に判明していた既知の問題点の一覧を示します。

- 2113177     オンラインでのエクスポート、バックアップ、復元、またはインデックス生成の実行中にサーバーを停止したときに Directory Server がクラッシュする現象が確認されています。
- 2129151     stop-slapd コマンドを実行すると、Directory Server がハングアップします。
- 2133169     Directory Server で LDIF からエントリをインポートするとき、createTimeStamp および modifyTimeStamp 属性が生成されません。  
  
LDIF インポートは高速化のために最適化されています。そのため、インポート処理ではこれらの属性を生成しません。この制限に対処するには、エントリをインポートする代わりに追加してください。インポートを実行する前に LDIF を前処理して属性を追加する対処策もあります。
- 4979319     Directory Server の一部のエラーメッセージで、実際には存在しないデータベースエラーガイドに言及しています。クリティカルなエラーメッセージの意味が理解できず、そのメッセージについての記述がドキュメントに存在しない場合は、Sun サポートまでお問い合わせください。
- 6401484     送信先サフィックスに対して SSL クライアント認証を使用するとき、dsconf accord-repl-agmt コマンドがレプリケーションアグリーメントの認証プロパティを整合できません。

この問題点に対処するには、次の手順に従って、サプライヤの証明書をコンシューマ上の設定に格納します。ここで示すコマンド例は、2つのインスタンスが同じホスト上にあることを前提としています。

1. 証明書をファイルにエクスポートします。

次の例は、`/local/supplier` および `/local/consumer` に位置するサーバーを対象にエクスポートを実行する方法を示しています。

```
$ dsadm show-cert -F der -o /tmp/supplier-cert.txt \
/local/supplier defaultCert
$ dsadm show-cert -F der -o /tmp/consumer-cert.txt \
/local/consumer defaultCert
```

2. クライアントとサプライヤの証明書を交換します。

次の例は、`/local/supplier` および `/local/consumer` に位置するサーバーを対象に交換を実行する方法を示しています。

```
$ dsadm add-cert --ca /local/consumer supplierCert \
/tmp/supplier-cert.txt
$ dsadm add-cert --ca /local/supplier consumerCert \
/tmp/consumer-cert.txt
```

3. コンシューマ上で SSL クライアントエントリを追加します。 `usercertificate;binary` 属性に `supplierCert` 証明書を指定し、適切な `subjectDN` を指定します。
4. コンシューマ上でレプリケーションマネージャー DN を追加します。

```
$ dsconf set-suffix-prop suffix-dn repl-manager-bind-dn:entryDN
```

5. `/local/consumer/alias/certmap.conf` 内のルールを更新します。
6. `dsadm start` コマンドで両方のサーバーを再起動します。

6410741 Directory Service Control Center では、値を文字列としてソートします。そのため、Directory Service Control Center で数字をソートすると、それらの数字は文字列であるかのようにソートされます。

0、20、および 100 を昇順にソートすると、0、100、20 というリストが得られます。0、20、および 100 を降順にソートすると、20、100、0 というリストが得られます。

6412131 複数バイト文字を含む証明書名は、`dsadm show-cert instance-path valid-multibyte-cert-name` コマンドの出力ではドットとして示されます。

6416407 エスケープした引用符またはシングルスケープしたコンマを含む ACI ターゲット DN を Directory Server が正しく解析しません。次の例に示す変更は構文エラーとなります。

```
dn:o=mary\"red\"doe,o=example.com
changetype:modify
```

```

add:aci
aci:(target="ldap:///o=mary\red\doe,o=example.com")
(targetattr="*)(version 3.0; acl "testQuotes";
allow (all) userdn ="ldap:///self");

dn:o=Example Company\, Inc.,dc=example,dc=com
changetype:modify
add:aci
aci:(target="ldap:///o=Example Company\, Inc.,dc=example,dc=com")
(targetattr="*)(version 3.0; acl "testComma";
allow (all) userdn ="ldap:///self");

```

ただし、エスケープしたコンマが2つ以上含まれる例は、正しく解析されることが確認されています。

6428448 dpconf コマンドを対話型モードで使用するときに、「「cn=Directory Manager」のパスワードを入力:」プロンプトが2回表示される現象が確認されています。

6446318 Windows で、SASL 認証が次の2つの理由で失敗します。

- SASL 暗号化が使用されている。

SASL 暗号化によって生じる問題に対処するには、サーバーを停止し、`dse.ldif` を編集し、次のように SASL をリセットします。

```

dn: cn=SASL, cn=security, cn=config
dssaslminssf: 0
dssaslmaxssf: 0

```

- ネイティブパッケージを使用してインストールが実行された。

ネイティブパッケージのインストールによって生じる問題に対処するには、`SASL_PATH` を `install-dir\share\lib` に設定します。

6449828 Directory Service Control Center では、`userCertificate` バイナリ値が正しく表示されません。

6461602 ソースが削除記録 (tombstone) の場合、およびターゲットがエントリ (レプリケートされない DEL) の場合、`dsrepair fix-entry` が機能しません。

回避方法: `dsrepair delete-entry` コマンドを使用して、エントリを明示的に削除します。その後、`dsrepair add-entry` コマンドを使用して削除記録 (tombstone) を追加します。

6468074 設定属性 `passwordRootdnMayBypassModsCheck` を有効に設定したときに、別のユーザーのパスワードを変更するときのパスワード構文チェックをすべての管理者が回避できるようにサーバーの動作が変更されましたが、この属性の名前からはこのことがはっきりわかりません。

- 6469154 Windows では、`dsadm` および `dpadm` コマンドによる出力とヘルプメッセージが、簡体字中国語および繁体字中国語にローカライズされていません。
- 6469296 Directory Service Control Center では既存のサーバーの設定をコピーできますが、プラグイン設定をコピーすることはできません。
- 6469688 Windows システムで、LDIF ファイル名に 2 バイト文字が含まれる LDIF を `dsconf` コマンドでインポートしようとしたときに、インポートが失敗する現象が確認されています。
- この問題点に対処するには、2 バイト文字が含まれないように LDIF ファイル名を変更します。
- 6483290 Directory Service Control Center と `dsconf` コマンドのどちらを使用しても、無効なプラグイン署名を Directory Server が処理する方法を設定できません。デフォルトの動作では、プラグインの署名の検証は行われませんが、署名が有効であることは要求されません。署名が無効な場合、Directory Server は警告をログに記録します。
- サーバーの動作を変更するには、`cn=config` 上で `ds-require-valid-plugin-signature` 属性と `ds-verify-valid-plugin-signature` 属性を調整します。どちらの属性も、値 `on` または `off` を設定できます。
- 6485560 Directory Service Control Center では、別のサフィックスにリフェラルを返すように設定されたサフィックスを参照できません。
- 6488197 Windows システムでのインストール後およびサーバーインスタンス作成後は、インストールおよびサーバーインスタンスのフォルダに対するファイルアクセス権により、すべてのユーザーにアクセスが許可されません。
- この問題点に対処するには、インストールおよびサーバーインスタンスのフォルダのアクセス権を変更します。
- 6488284 HP-UX プラットフォームの場合、次のセクションの Directory Server Enterprise Edition マニュアルページに次のコマンド行からアクセスできません。
- `man5dpconf`。
  - `man5dsat`。
  - `man5dsconf`。
  - `man5dsoc`。
  - `man5dssd`。



この問題を回避するには、『[Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 Man Page Reference](#)』のマニュアルページにアクセスします。ここから、Directory Server Enterprise Edition のすべてのマニュアルページを PDF 形式でダウンロードできます。

- 6490557 不正な CoS テンプレートの入力を試みると、Directory Server 6 のバージョンでクラッシュの原因となります。
- 6490653 Internet Explorer 6 を使用して、Directory Service Control Center 上で Directory Server のリフェラルモードを有効にすると、リフェラルモードの確認ウィンドウが小さいために、テキストの一部が切れて表示されません。
- この問題点に対処するには、Mozilla Web ブラウザなどの別のブラウザを使用します。
- 6491849 レプリカをアップグレードし、新しいシステムにサーバーを移動したあと、新しいホスト名を使用するレプリケーションアグリーメントを再作成する必要があります。Directory Service Control Center では、既存のレプリケーションアグリーメントを削除できますが、新規アグリーメントを作成することはできません。
- 6492894 Red Hat システムでは、`dsadm autostart` コマンドによって、ブート時に確実にサーバーインスタンスが起動されるとは限りません。
- 6494997 DSML を設定している場合、`dsconf` コマンドは、適切な `dsSearchBaseDN` 設定を要求しません。
- 6495004 Windows システムでは、インスタンスの `basename` が `ds` である場合、Directory Server が起動に失敗する現象が確認されています。
- 6497894 `dsconf help-properties` コマンドは、インスタンス作成後にのみ正しく機能するように設定されています。また、オンラインマニュアルで、`dsml-client-auth-mode` コマンドのデフォルト値が間違っていて記述されています。正しい値のリストは `client-cert-first | http-basic-only | client-cert-only` です。
- 6500936 ネイティブパッチ配布では、アクセスログのフィルタリング用の日付選択に使用するミニチュアカレンダーが、繁体字中国語に正しくローカライズされていません。
- 6501320 カスタムスキーマのインデックスの作成中に、`all-ids-threshold` のサフィックスレベルの変更が DSCC によって完全に反映されません。
- 6503509 `dscconmon`、`dscconreg`、`dscconsetup`、および `dscconrepair` コマンドによって表示される一部の出力がローカライズされていません。
- 6503546 システムのロケールを変更してから DSCC を起動しても、ポップアップウィンドウのメッセージが選択したロケールで表示されません。

- 6504180 Solaris 10 の英語および日本語ロケールで、DN に複数バイト文字を持つインスタンスの場合にパスワード確認が失敗します。
- 6504549 ns-slapd プロセスが rsh を使用してリモートで開始された場合、Java Enterprise System Monitoring Framework による Directory Server のインスタンスの検出に成功しません。
- 6507312 HP-UX システムでは gdb での調査のあと、NSPR ライブラリを使用したアプリケーションがクラッシュしてコアダンプします。この問題は、gdb を実行中の Directory Server インスタンスに接続したあと、gdb quit コマンドを使用した場合に発生します。
- 6520646 Internet Explorer を使用しているときに「DSCC オンラインヘルプの参照」をクリックしても、オンラインヘルプが表示されません。
- 6527999 Directory Server のプラグイン API には、slapi\_value\_init()()、slapi\_value\_init\_string()()、および slapi\_value\_init\_berval()() 関数が含まれています。
- これらすべての関数が内部要素をリリースするためには「done」関数が必要になります。しかし、パブリック API に slapi\_value\_done() () 関数がありません。
- 6541040 Directory Service Control Center を使用してパスワードポリシーを変更しているときに、変更されていない属性が予期せずリセットされることがあります。
- Directory Service Control Center を使用してデフォルトパスワードポリシーを管理すると、エラーは発生しません。しかし、Directory Service Control Center を使用して特別なパスワードポリシーを管理すると、変更されていない属性がリセットされる可能性があります。
- 6542857 Solaris 10 で Service Management Facility (SMF) を使用してサーバーインスタンスを有効にした場合、システムをリブートしてもインスタンスが起動しないことがあり、次のエラーを返します。
- ```
svcadm: Instance "svc:/instance_path" is in maintenance state.
```
- この問題を回避するには、ローカルユーザーを使用して Directory Server および Directory Proxy Server サービスを作成します。
- 6547992 HP-UX では、dsadm および dpadm コマンドで libcudata.sl.3 共有ライブラリが検出されない可能性があります。
- この問題を回避するには、SHLIB\_PATH 変数を設定します。
- ```
env SHLIB_PATH=${INSTALL_DIR}/dsee6/private/lib dsadm
```
- 6550543 DSCC が Tomcat 5.5 および JDK 1.6 とともに使用されている場合、エラーが発生する可能性があります。

- この問題を回避するには、代わりに JDK 1.5 を使用します。
- 6551685 dsadm autostart によって、システムのリブート時にネイティブの LDAP 認証が失敗することがあります。
- この問題を回避するには、リブートスクリプトの順序を逆にします。デフォルトの順序は /etc/rc2.d/S71ldap.client および /etc/rc2.d/S72dsee\_directory です。
- 6557480 Solaris 9 および Windows では、Web Archive (WAR) ファイルを使用して構成されたコンソールからオンラインヘルプにアクセスすると、エラーが表示されます。
- 6559825 レプリケートされたサフィックスのあるサーバーで DSCC を使用してポート番号を変更すると、サーバー間のレプリケーションアグリーメントを設定する場合に問題が発生します。
- 6587801 version 6.1 以降の dsadm コマンドと Directory Service Control Center は、version 6.0 の dsadm コマンドで作成された Directory Server インスタンスの組み込みの CA 証明書を表示しません。
- この問題に対処するには、次を実行します。
- modutil の 64 ビットバージョンとともに 64 ビットモジュールを追加します。
- ```
$ /usr/sfw/bin/64/modutil -add "Root Certs 64bit" \
-libfile /usr/lib/mps/64/libnssckbi.so -nocertdb \
-dbdir /instance-path/alias -dbprefix slapd- -secmod secmod.db
```
- 6630897 dsadm show-\* -log l コマンドの出力に正しい行が含まれていません。以前にローテーションされたログの最終行を含んでいる可能性があります。
- 6630924 ログのいくつかの行に 1024 文字以上の文字が含まれている場合、dsadm show-\* -log コマンドの出力が正しくありません。
- 6634397 すべてのインスタンス (0.0.0.0) 上で待機していると DSCC で登録したサーバーに対して dsconf を使用してサーバーの待機アドレスを変更しようとする、DSCC エラーが発生します。
- SSL ポートのみとセキュリティー保護された待機アドレスを Directory Server Enterprise Edition 6.3 で設定するには、次の回避方法を実行します。
1. サーバーを DSCC から登録解除します。

```
dsccreg remove-server /local/myserver
```
  2. LDAP ポートを無効にします。

```
dsconf set-server-prop ldap-port:disabled
```
  3. セキュリティー保護された待機アドレスを設定します。

```
$ dsconf set-server-prop secure-listen-address:IPaddress
```

```
$ dsadm restart /local/myserver
```

4. DSCC を使用してサーバーを登録します。「サーバーの登録」ウィザードでサーバーの IP アドレスを指定します。この操作を元に戻すことはできません。

6637242 WAR ファイルの配備後、「トポロジの表示」ボタンが機能しない場合があります。org.apache.jsp.jsp.ReplicationTopology\_jsp.\_jspService に基づいた Java の例外が起きることがあります。

6640755 Windows の韓国語ロケールで ns-slapd が開始に失敗すると、dsadm start コマンドが nsslapd エラーログを表示しません。

6648240 Directory Service Control Center で「インデックス」タブの「追加のインデックス」テーブルの属性を変更または削除すると、ブラウザが更新されるまで無効な情報が表示される可能性があります。

6689432 use-cert-subject-as-bind-dn を false に設定する試みが失敗したあとで表示されるエラーメッセージに、間違ったプロパティ名が表示されています。

6696857 Directory Proxy Server インスタンスに DSCC を通じて有効にされた、セキュリティ保護された待機ソケット/ポートのみがある場合で、サーバー証明書がデフォルトではない(たとえば、認証局によって署名された証明書など)場合、DSCC を使用してインスタンスを管理できません。

この問題を回避するには、DPS インスタンスの登録を解除してからふたたび登録します。別の解決方法としては、サーバー証明書を使用する DSCC レジストリ内の DPS インスタンスの userCertificate 情報を更新することです。

6720595 UNIX システムで、dsconf set-log-prop または DSCC を使用してログファイルのパスを変更しようとする試みが、ログファイルの新しいパスがまだ存在していない場合に失敗します。

6725346 データベース名には ASCII(7ビット)の英数字、ハイフン(-)、および下線(\_)のみを含むことができます。Directory Server は、データベース名、ファイル名、およびパス名の文字列に複数バイト文字(中国語や日本語の文字セットなど)を受け付けません。複数バイトの文字を含む Directory Server サフィックスを作成する場合にはこの問題を回避するには、複数バイト文字を含まないデータベース名を指定します。コマンド行でサフィックスを作成する場合は、たとえば、dsconf create-suffix コマンドの --db-name オプションを明示的に指定します。

```
$ dsconf create-suffix --db-name asciiDBName multibyteSuffixDN
```

サフィックスのデフォルトデータベース名は使用しないでください。データベース名に複数バイト文字は使用しないでください。

- 6750837 Microsoft Windows のネットワークドライブの仕様が  
大文字と小文字を区別します。このため、たとえば c:/ と c:/ の両方を使うと、マスターの再起動後に DSEE 管理コマンドが原因でレプリケーションが失敗する場合があります。この問題を回避するには、「DSEE\_HOME/ds6/bin/dsconf accord-repl-agmt」を使用してレプリケーションアグリーメントを修正します。
- 6751354 Microsoft Windows のネットワークドライブの仕様が  
大文字と小文字を区別します。このため、たとえば c:/ と c:/ の両方を使うと、DSEE 管理コマンドによって、次に示すようなさまざまなエラーメッセージが表示される場合があります。
- ```
WARNING<4227> - Plugins - conn=-1 op=-1 msgId=-1 -
Detected plugin paths from another install, using current install
```
- この警告が表示されないようにするには、一貫して c:/ を使用します。
- 6752625 DSCC のオンラインヘルプから不明な Web ページにリンクされる場合があります。特に、一部のウィザードメニューで次のような記述があります。
- ```
For more information about data source configuration,
see the "Sun Directory Server Enterprise Edition Reference."
```
- この DSEE リファレンスドキュメントへのリンクを選択すると、エラーメッセージが表示されます。
- この問題を回避するには、3 番目のマウスボタンでこのリンクを選択して、ポップアップメニューから「Open Link in New Window」を選択します。選択したドキュメントが新しいブラウザウィンドウに表示されません。
- 6753020 5.2 コンシューマを含むマルチマスターレプリケーション設定で、  
version 7.0 のサーバーが最大 4 つサポートされます。
- 6776034 DSCC エージェントを Solaris 9 上の CACAO に登録できません。SUNWxcu4  
パッケージがシステムに存在しない場合、「Failed to configure  
Cacao.」というエラーが表示されコマンド  
DSEE\_HOME/dsc6/bin/dsc6setup cacao-reg が失敗します。
- この問題を修正するには、不足していた SUNWxcu4 のパッケージをシステムにインストールします。
- 6783994 ldapcompare コマンドの -f オプションが正しく動作しません。
- 6845087 Windows で、CLI の表示が文字化けします。

- 6853393 DSCC がホストのシノニムをサポートしません。DSCC サフィックスをレプリケートする場合、レプリケーションアグリーメントのホスト名は DSCC レジストリ内のホスト名と一致する必要があります。
- 6876315 `dsmig` コマンドを実行しているユーザーが対象となるディレクトリサーバーインスタンスを保持していない場合、移行ファイルを生成しそのファイルにアクセスするのに必要なアクセス権がないためコマンドが失敗します。
- 対象となるディレクトリサーバーを保持し、少なくともソースディレクトリサーバーへの読み取りアクセス権を持っているユーザーが `dsmig` コマンドを実行した場合は成功します。こうした条件を満たせない場合、データベースをエクスポートしてから、新しいディレクトリサーバーにインポートすることで移行を実施してください。
- 6885178 `hosts_access` のマニュアルページに、IPv6 が Windows システムでサポートされていないという誤った記述があります。
- 6891486 インポート処理が始まった直後、いくつかのデバッグメッセージとエラー `#20502 Serious failure during database checkpointing, err=2 (No such file or directory)` が記録される場合があります。これらのメッセージは削除された古いサフィックスデータを参照しているため、無視しても構いません。
- 6894136 サーバーインスタンス上のアイドルタイムアウトを 2s などの非常に小さい値に設定した場合、DSCC に接続エラーが表示される場合があります、ログローテーションなどの時間のかかる操作ができなくなります。アイドルタイムアウトの値は 10s や 20s 以上に設定し、ネットワークレイテンシに合わせてタイムアウトを調整してください。
- 6898825 Windows 2008 で、共通エージェントフレームワークが Windows Service Manager からの起動を拒否する場合があります。
- 回避方法として、`cacaoadm start` コマンドを使用して手動で CACAO サービスを起動します。
- 6955408 Windows システムで `dscsetup dismantle` コマンドを実行しても、CACAO Windows サービスは完全には削除されません。
- 回避方法: `dscsetup dismantle` コマンドの実行後、Directory Server Enterprise Edition をアンインストールする前に `cacaoadm prepare-uninstall` コマンドを実行します。これで、CACAO Windows サービスが削除されます。

# Directory Proxy Server の修正されたバグと既知の問題点

---

この章では、Directory Proxy Server のリリース時点で判明している、製品固有の重要な情報を示します。

この章では、次の内容について説明します。

- 63 ページの「[Directory Proxy Server 7.0 で修正されたバグ](#)」
- 71 ページの「[Directory Proxy Server の既知の問題点と制限事項](#)」

## Directory Proxy Server 7.0 で修正されたバグ

この節では、Directory Proxy Server の前回のリリース以降に修正されたバグの一覧を示します。

| バグID    | 説明                                                                                      |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 6351249 | dpcfg コマンドで処理されるプロパティの値が検証されません。                                                        |
| 6417166 | ディレクトリサーバーはリソース制限ポリシーの <code>minimum-search-filter-substring-length</code> プロパティに従いません。 |
| 6446600 | ディレクトリサーバーが LDAP ソースからの ACI 通知の変更を処理しない場合があります。                                         |
| 6468142 | 仮想ビューと LDIF とで、属性名が異なって保存されます。                                                          |
| 6468198 | ディレクトリサーバーは、値セットのない仮想属性にデフォルトの値を適用するべきです。                                               |
| 6468593 | すべての監視要素は、 <code>statusDescription</code> プロパティの値セットを持つべきです。                            |
| 6468694 | エントリが存在しない場合、検索操作が完全な情報を返しません。                                                          |
| 6469976 | <code>dpadm split-ldif</code> コマンドは、スキップされたエントリ数など、より多くの統計情報を提供するべきです。                  |

---

| バグ ID   | 説明                                                                                                                                                     |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6475156 | 一部のプロパティでは、変更を有効にするためにディレクトリサーバーを再起動する必要があるにもかかわらず、 <code>dpcfg</code> コマンドがプロパティの値を変更し、 <code>is-restart-required</code> を <code>false</code> に設定します。 |
| 6489771 | 接続ハンドラが匿名バインドを誤ってバインドします。                                                                                                                              |
| 6491133 | 複数バイトの証明書属性が正しく処理されません。                                                                                                                                |
| 6491845 | DSCC は「Controls Allowed Through Proxy」のデフォルト値を表示しません。                                                                                                  |
| 6492447 | <code>dpconf</code> コマンドは、 <code>scriptable-alerts-command</code> 属性を設定できるべきではありません。                                                                   |
| 6495493 | <code>SUNWdsee7-config</code> の位置を変更した場合、 <code>dpadm</code> コマンドは <code>SUNWdsee7-config</code> がインストールされていないというメッセージを記録します。                          |
| 6520362 | <code>dpconf get-jdbc-data-source-prop</code> および <code>set-jdbc-data-source-prop</code> コマンドは、接続番号プロパティをサポートするべきです。                                   |
| 6527010 | Directory Proxy Server は、テーブル間の多対多 (N:N) の関係を意味する JDBC 属性を JDBC データベースに書き込むことができません。                                                                   |
| 6527837 | プロキシサーバーは LDAP サーバーに対してより少ない初期接続を開くべきです。                                                                                                               |
| 6536823 | プロキシサーバーがクライアント接続を頻繁に閉じすぎます。                                                                                                                           |
| 6537654 | プロキシサーバーは JDBC バックエンドへの新規接続を頻繁に開きすぎます。                                                                                                                 |
| 6539650 | Linux インストールで、プロキシサーバーが複数バイト DN を作成できません。                                                                                                              |
| 6547755 | DSCC が複数バイトの証明書名を正しく作成しません。                                                                                                                            |
| 6550554 | <code>zh_cn/ja</code> ロケールで、DSCC は複数バイトのプロキシサーバーインスタンスを作成できません。                                                                                        |
| 6554232 | プロキシサーバーは、結合データビューでアスタリスク文字 (*) を使って属性の完全なリストを取得できません。                                                                                                 |
| 6561139 | プロキシサーバーは、SQL 例外のあとで JDBC トランザクションをロールバックできません。                                                                                                        |
| 6562213 | 仮想グループを使用する場合、プロキシサーバーは誤った操作番号を記録する場合があります。                                                                                                            |
| 6562601 | DSCC は証明書のプロパティを表示しません。                                                                                                                                |
| 6567644 | プロキシサーバーは誤った要求をデータベースに送信します。                                                                                                                           |
| 6573259 | 結合ビューで <code>ldapsearch</code> コマンドが失敗した場合、そのエラー出力に内部的にマップされた DN が返されます。                                                                               |
| 6573264 | ベース DN が JDBC ソース内に存在しない場合、 <code>ldapsearch</code> コマンドはエラー 32 を返すべきです。                                                                               |

---



| バグ ID   | 説明                                                                                                                 |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6590816 | LDAP リスナーで <code>connectionIdleTimeOutInSec</code> プロパティを設定すると DSCC が失敗します。                                        |
| 6592394 | Windows インストールで、 <code>dpadm create</code> コマンドが不正な DN を受け入れます。                                                    |
| 6594076 | DN が LDAP データビューにマップされている場合、変更操作が失敗します。                                                                            |
| 6596223 | 誤った <code>filter-join-rule</code> により、SQL エラーが LDAP 結果内に返されます。                                                     |
| 6596876 | <code>connectionIdleTimeOutInSec</code> 属性の値は、ミリ秒単位ではなく秒単位であるべきです。                                                 |
| 6597598 | 変更操作中に null ポインタ例外が発生する場合があります。                                                                                    |
| 6597608 | LDAP トランザクションが部分的にしか成功しない場合があります。                                                                                  |
| 6599118 | 文字列以外の列を文字列の値で変更すると、SQL エラーメッセージが返されます。                                                                            |
| 6599722 | プロキシサーバーが誤った値を格納する場合があります。                                                                                         |
| 6616197 | <code>filter-join-rule</code> の属性が数値以外の場合、二次表に対する書き込み操作が失敗します。                                                     |
| 6616898 | <code>objectclass</code> 属性を二次データビューに格納できません。                                                                      |
| 6618968 | 1 つのエントリが二次ビューから返された場合、結合ビューの最適化は実行されるべきではありません。                                                                   |
| 6622852 | DN 上の <code>def-value</code> の仮想変換が期待どおりに動作しません。                                                                   |
| 6630730 | <code>FailoverLoadBalancingAlgorithm.getSearchConnection</code> で null ポインタ例外が発生します。                               |
| 6637173 | 要求された二次属性にアクセス権が存在しない場合、エントリの DN が返されません。                                                                          |
| 6637608 | 負荷の高い状態で、 <code>ArrayIndexOutOfBoundsException</code> および <code>NegativeArraySizeException</code> エラーが発生する場合があります。 |
| 6638374 | エントリの UID 属性に大文字が含まれている場合、そのエントリを結合ビューから追加できません。                                                                   |
| 6639044 | 単一行の表にマップされた値のない属性を変更および削除しようとする、不正なリターンコードが返されます。                                                                 |
| 6639635 | 単一行の表にマップされていない値に対する変更および置き換え操作が失敗します。                                                                             |
| 6640879 | 検索ベースに <code>attr-name-mapping</code> のソースを使用している場合、プロキシサーバーはエラー 32 を返すべきです。                                       |
| 6640884 | プロキシサーバーは、 <code>attr-name-mapping</code> のソースを意味する検索を、ディレクトリサーバーのバックエンドに転送するべきではありません。                            |
| 6641888 | 検索操作が、 <code>viewable-attr</code> に存在しない属性を含むエントリを返します。                                                            |

---

| バグ ID   | 説明                                                                         |
|---------|----------------------------------------------------------------------------|
| 6641925 | 結合ビューからの追加操作によって、二次 JDBC データソースにエントリが常に作成されます。                             |
| 6642559 | 書き込み仮想変換が正しく動作しない場合があります。                                                  |
| 6642578 | エントリを変更する場合、書き込み仮想変換が期待どおりに動作しません。                                         |
| 6642686 | 属性に複数の値がある場合、remove-attr-value 読み込み仮想変換が正しく動作しません。                         |
| 6643121 | 外部キーが VARCHAR の場合、ldapmodify コマンドが失敗します。                                   |
| 6643181 | 文字列属性が長すぎる場合に、JDBC データソースで問題が発生する場合があります。                                  |
| 6643701 | maxOperationPerInterval および operationRateCheckInterval プロパティが期待どおりに動作しません。 |
| 6646107 | 列サイズより長い値を使用している場合に、ADD 操作が失敗する場合があります。                                    |
| 6648665 | 接続でいずれの操作も実行されていない場合、max-client-connections プロパティが動作しません。                  |
| 6649071 | 翻訳された GUI テキストを統一するべきです。                                                   |
| 6651837 | ユーザー DN が正しく正規化されないため、ACI が失敗します。                                          |
| 6652476 | objectclass:top またはネーミング属性が存在しない場合、スキーマ検査を有効にすると追加操作が失敗する場合があります。          |
| 6653253 | FailoverLoadBalancingAlgorithm の競合状態が原因で、プロキシサーバーが失敗する場合があります。             |
| 6653453 | プロキシサーバーを介したディレクトリサーバーへの SSL を使用した持続検索が、期待したデータを返すことができません。                |
| 6654625 | ガベージコレクションの実行がトリガーされた場合、既存の接続が解除されます。                                      |
| 6656324 | プロキシサーバーは、ADD 操作で DN 値を常に小文字に変換します。                                        |
| 6659381 | JDK 1.6 を使用した高負荷の検索で、プロキシサーバー JVM が失敗します。                                  |
| 6661001 | 拒否操作がバックエンドサーバーに転送されます。                                                    |
| 6661375 | ソケットが CLOSE_WAIT 状態のまま変わらない場合があります。                                        |
| 6661474 | プロキシサーバーは接続プールの接続番号を誤って計算する場合があります。                                        |
| 6661981 | source-attr が client-attr の部分文字列である場合、attr-name-mappings プロパティを設定できません。    |
| 6663112 | Linux 64 ビットインストールでは、プロキシサーバーを 32 ビットモードで起動できません。                          |
| 6665983 | オブジェクトクラスの一部ではない属性の変更操作が正常に動作しません。                                         |

---

| バグ ID   | 説明                                                                                                                                      |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6670752 | プロキシサーバーが次の例外をスローする場合があります: <code>java.io.IOException: Timeout when waiting to read from input stream</code>                            |
| 6671579 | 仮想化が、検索フィルタ内で仮想的にマップされたベースの解決に失敗します。                                                                                                    |
| 6676073 | 属性の誤った処理が原因で、結合データビューの変更操作が誤って経路指定される場合があります。                                                                                           |
| 6676076 | 結合データビューの変更操作で null ポインタ例外が発生する場合があります。                                                                                                 |
| 6678386 | バインドが最大数に達すると、バインド接続が解放されず、それ以降のバインドが実行できません。                                                                                           |
| 6680717 | 結合ビューで <code>join-rule</code> を省略すると、 <code>StringIndexOutOfBoundsException</code> が発生する場合があります。                                        |
| 6681502 | メモリー監視がデフォルトで無効になっています。                                                                                                                 |
| 6681932 | <code>remove-attr-value</code> 書き込み仮想変換が正常に動作しません。                                                                                      |
| 6682004 | 書き込み <code>remove-attr-value</code> 仮想変換のルールは <code>view-attribute-value</code> に設定されるべきです。                                             |
| 6686099 | ACI が LDAP に格納されていて、その LDAP ソースが利用できない場合にサーバー例外が発生します。                                                                                  |
| 6688180 | <code>cn-monitor</code> の下でエントリが重複し、 <code>numDroppedOperations</code> および <code>receivedOperations</code> に誤った値が格納されます。                |
| 6688187 | 時間分解能の属性がサーバーを再起動するまで有効になりません。                                                                                                          |
| 6689377 | デフォルトの参照ポリシーが <code>discard</code> に設定されています。                                                                                           |
| 6689466 | <code>dpconf</code> コマンドが <code>cert-search-bind-dn</code> および <code>cert-search-bind-pwd</code> プロパティにアクセスしません。                        |
| 6689577 | <code>ssl-policy</code> がデータソースの <code>client</code> に設定されている場合、クライアントがプロキシサーバーに平文で接続できません。                                             |
| 6691341 | <code>average-traffic-sampling-interval</code> を使用した監視が正常に動作しません。                                                                       |
| 6692090 | <code>operationPerIntervalLastAverage</code> プロパティが 1 秒ごとの操作に指定されているのに対し、 <code>operationPerIntervalPeak</code> プロパティが間隔ごとの操作に指定されています。 |
| 6692627 | LDAP ブラウザを使用している場合、検索フィルタのデコード中にエラーが発生する場合があります。                                                                                        |
| 6692693 | プロキシサーバーは、 <code>max-op-count-per-interval</code> を正しく使用しません。                                                                           |
| 6697494 | エントリが存在しない場合、共有属性を結合ビューから削除できません。                                                                                                       |

---

| バグ ID   | 説明                                                                  |
|---------|---------------------------------------------------------------------|
| 6702095 | jdbc-attr が既存のオブジェクトクラスの表に追加された場合、そのメタデータが動的に取得されません。               |
| 6702169 | エントリがデータビューのベース DN から 1 レベル下でない場合、DN の属性値マッピングが正しく動作しません。           |
| 6706567 | 一次ビューベースと二次ビューベースが異なる場合、DN 結合ルールを使用した結合の最適化が正しく動作しません。              |
| 6707006 | フィルタ結合ルールが結合データビューで正しく処理されません。                                      |
| 6707110 | 検索フィルタに jdbc-object-class の一部ではない属性が含まれている場合、検索操作が失敗します。            |
| 6711054 | プロキシサーバーが SQL Server の SQL タイプ smalldatetime をサポートしていません。           |
| 6711320 | 存在しない cn=monitor 子エントリに対する 1 レベル範囲の検索が誤った検索結果を返します。                 |
| 6713382 | DN 正規化が、属性値にあるシーケンス \dd または %dd の変換に失敗します。                          |
| 6714425 | ldapsearch コマンドが引用符で囲まれたアスタリスクを正しく処理しません。                           |
| 6714448 | ldapsearch コマンドは、整数検索で数値以外の文字を誤って処理する場合があります。                       |
| 6714856 | 結合データビューで例外が発生する場合があります。                                            |
| 6717836 | 複数行の主表にある属性を置き換えると、その表にある別の属性を null に設定する場合があります。                   |
| 6717943 | プロパティのデフォルトのサイズ制限が誤って設定されます。                                        |
| 6720614 | プロキシサーバーが起動した際にエラーメッセージが表示されます。                                     |
| 6721702 | 主表が単一行の表ではない場合、JDBC 検索が失敗する場合があります。                                 |
| 6724559 | プロキシサーバーは、許可されないコントロールを含んだ要求をフィルタするべきです。                            |
| 6727763 | 複数行の主表にある属性を削除すると、一致するエントリが削除されます。                                  |
| 6728378 | DN/オブジェクトクラスルールが指定されていない場合、追加操作中に結合データビューで null ポインタ例外が発生する場合があります。 |
| 6728746 | プロキシサーバーは、複数のオブジェクトクラスを含むエントリを JDBC ソースに追加できません。                    |
| 6730825 | 属性の非表示ルールがルール内のフィルタ属性を返しません。                                        |
| 6731666 | プロキシサーバーはデータビューの process-bind 属性値を無視します。                            |
| 6734365 | 属性マッピングが、別のデータビューを使用することで消去されません。                                   |

---

| バグ ID   | 説明                                                                                                         |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6734438 | 電子メール通知を設定していてメール転送エージェントが利用できない場合、プロキシサーバーが起動時に失敗します。                                                     |
| 6734559 | 仮想属性に依存している場合、仮想 DN マッピングが失敗します。                                                                           |
| 6734722 | バックエンド接続が CLOSE_WAIT 状態のまま変わりません。                                                                          |
| 6735304 | null 値を持つ属性を非表示にできません。                                                                                     |
| 6736621 | 変換に失敗すると、バインド DN が拒否されます。                                                                                  |
| 6737084 | DN が誤ってマッピングされる場合があります。                                                                                    |
| 6739414 | プロキシサーバーが属性名の大文字小文字を変更します。                                                                                 |
| 6739456 | グループは、設定ファイルおよびログファイルにアクセスできるべきです。                                                                         |
| 6739974 | プロキシサーバーは、属性名マッピングを小文字のみで返します。                                                                             |
| 6741401 | 外部キーが複数行の主表に格納されている場合、 <code>ldapmodify add</code> 操作が失敗します。                                               |
| 6741403 | SELECT 文の中の不正な結合が原因で、 <code>ldapsearch</code> コマンドが失敗する場合があります。                                            |
| 6741410 | 既存の値が属性に追加された場合、 <code>TYPE_OR_VALUE_ALREADY_EXISTS</code> メッセージが返されるべきです。                                 |
| 6742935 | 複数值属性に対して削除操作を実行した場合、 <code>NO_SUCH_ATTRIBUTE</code> メッセージが返されるべきです。                                       |
| 6743357 | 検索フィルタ内に属性フィルタと複数の条件を持つ検索操作によって、エラー 1 が返されます。                                                              |
| 6748387 | 操作によって状態が変更された場合、プロキシサーバーはメッセージを記録するべきです。                                                                  |
| 6750354 | プロキシサーバーは 2048 ビットの <code>keylength</code> を持つ証明書の要求をサポートするべきです。                                           |
| 6751692 | <code>MaxTenuringThreshold</code> Java 引数を使用している場合、 <code>dpadm start</code> コマンドが失敗します。                   |
| 6752963 | 例外メッセージが誤って記録される場合があります。                                                                                   |
| 6754091 | <code>filter-join-rule</code> のある結合ビュー操作によって <code>StringIndexOutOfBoundsException</code> が返されます。          |
| 6757759 | 不正な JVM メモリー状態が原因で、プロキシサーバーが失敗する場合があります。                                                                   |
| 6758244 | JDBC ソースに対して、ベーススコープや <code>glue</code> エントリに対する DN フィルタを使用した検索操作は、すべての属性を返すべきではありません。                     |
| 6758812 | <code>enabled-admin-alert</code> プロパティは <code>none</code> の値を受け入れるべきで、 <code>all</code> の値を受け入れるべきではありません。 |

---

| バグ ID   | 説明                                                    |
|---------|-------------------------------------------------------|
| 6759391 | cn=monitor のインスタンスパスは正規化されるべきです。                      |
| 6760526 | dppadm start コマンドによって DPS.pid ファイルが生成されるべきです。         |
| 6760951 | 設定スキーマにディレクトリ設定スキーマとの矛盾が含まれています。                      |
| 6761017 | ワークスレッドのデッドロックが発生する場合があります。                           |
| 6761032 | searchMode プロパティが誤って定義されます。                           |
| 6761875 | CPU 使用率が高くなる場合があります、その結果プロキシサーバーの再起動が必要になります。         |
| 6764073 | プロキシ承認を使用するよう設定した場合、プロキシサーバーが失敗する場合があります。             |
| 6766175 | ldapsearch コマンドによって、JDBC ソースから空の値を持つ属性が返されません。        |
| 6767244 | 結合ビューを使用している場合、プロキシサーバーが二次ビューのバインドに失敗します。             |
| 6767776 | プロキシサーバーがルート DSE に対して DN マッピングを使用できません。               |
| 6768924 | プロキシサーバーが仮想変換中の分割されたマクロをマクロとして認識しません。                 |
| 6778090 | 結合ビューの仮想属性に対して、比較操作が正常に動作しません。                        |
| 6778091 | 結合ビューの二次属性に対して、比較操作が正常に動作しません。                        |
| 6782659 | ソケットが作成されたとき、SO_KEEPALIVE オプションが設定されません。              |
| 6784464 | dpconf コマンドは useTcpKeepAlive 属性をサポートするべきです。           |
| 6794720 | JDBC ソースからのデータビューに対する 1 レベル検索が予期しないエラーを返しません。         |
| 6795597 | 一次ビューの候補リストが大きい場合、結合データビューに対する検索パフォーマンスが低下します。        |
| 6801024 | 起動時の警告メッセージには、警告の原因についてのより詳細な情報が表示されるべきです。            |
| 6802371 | acceptBacklog プロパティがチャンネルベースのリスナーの場合に無視されます。          |
| 6807446 | 結合ビューが大文字小文字を区別する属性値を 2 度返すことがあります。                   |
| 6808701 | バックエンド接続のハートビート停止の送信頻度が不十分です。                         |
| 6808704 | バインドされたバックエンド接続のハートビート停止が送信されません。                     |
| 6808706 | 前回のサーバーアクティビティが原因で、バックエンドサーバーの確認が十分な頻度で実施されない場合があります。 |

---

| バグ ID   | 説明                                                                                    |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 6813566 | monitoring-interval および monitoring-bind-timeout に対する変更を有効にするため、プロキシサーバーを再起動する必要があります。 |
| 6818788 | プロキシサーバーはバックエンドハートビートをより確実に提供するべきです。                                                  |
| 6819304 | ソースのないフェイルオーバープールを定義している場合、cn=monitor に対する検索で null ポインタ例外が発生します。                      |
| 6819752 | 持続検索クライアントがエントリの変更通知を受信しない場合があります。                                                    |
| 6821752 | 持続検索によって使用されるリソースが、クライアント接続の解除後に消去されません。                                              |
| 6828842 | 利用可能なバックエンドサーバーがない場合、プロキシサーバーはエラー 1 を返すことがあります、エラー 52 を返すべきです。                        |
| 6832043 | useAffinity=false および affinityPolicy が明示的に設定されている場合、クライアントアフィニティを有効にするべきではありません。      |
| 6832498 | プロキシサーバーは、署名付き証明書の署名アルゴリズムとして MD5 を使用するべきではありません。                                     |
| 6835898 | dpconf コマンドは、Attribute/Entry Hiding に 1 文字の値を持つ属性を正しく処理しません。                          |
| 6845410 | 属性の名前変更によって、一部の BIND DN が壊れる場合があります。                                                  |
| 6847524 | 特殊文字のある DN が、設定ファイルに正しく書き込まれません。                                                      |

## Directory Proxy Server の既知の問題点と制限事項

この節では、リリース時点での既知の問題点および制限事項の一覧を示します。

### Directory Proxy Server 7.0 の制限事項

この節では、製品の制限事項の一覧を示します。

ファイルアクセス権を手作業で変更した場合の問題点

インストール済みの Directory Server Enterprise Edition 製品ファイルのアクセス権を変更すると、場合によってはソフトウェアが正常に動作しなくなる可能性があります。製品ドキュメントの指示に従う場合、または Sun サポートの指示に従う場合のみ、ファイルのアクセス権を変更してください。

この制限事項に対処するには、適切なユーザーアクセス権およびグループアクセス権を持つユーザーとして製品のインストールおよびサーバーインスタンスの作成を行います。

自己署名サーバー証明書を更新できない

自己署名サーバー証明書を作成するときは必ず、その証明書を更新する必要がないように、十分な長さの有効期限を指定するようにしてください。

Directory Proxy Server は、結合データビューの書き込み操作で原子性を保証しない  
原子性を保証するには、書き込み操作に結合データビューを使用しないでください。結合データビューで書き込み操作を行う場合は、外部メカニズムを使用して不一致を防止または検出してください。Directory Proxy Server エラーログを監視すると、不一致を監視できます。

マニュアルページのデフォルト値が不正

`log-buffer-size(5dpconf)` マニュアルページに、アクセスログバッファの誤ったデフォルトサイズが表示されています。アクセスログのデフォルトバッファサイズは 1M です。

パターンマッチング配布アルゴリズムのマニュアルページには、それぞれのプロパティが単一値として誤って表示されています。これらのプロパティは複数値です。

Oracle が JDBC ソースの場合、`ldapsearch` コマンドが空の値を持つ属性を返さない  
Oracle は空の文字列を `null` として処理します。空の文字列と `null` はいずれも LDAP エントリとして有効な値ですが、Oracle で両者を区別することはできません。この問題は、63 ページの「[Directory Proxy Server 7.0 で修正されたバグ](#)」に記載されているとおり、問題 6766175 の別の JDBC ソースのために修正されました。

## Directory Proxy Server 7.0 の既知の問題点

この節では、Directory Proxy Server 7.0 のリリース時に判明していた既知の問題点の一覧を示します。

- 5042517    DN 変更操作が、LDIF、JDBC、結合、およびアクセス制御データビューに対してサポートされていません。
- 6355714    現在、`getEffectiveRight` コントロールは、LDAP データビューでのみサポートされており、プロキシのローカルである ACI は考慮されません。
- 6386073    認証局によって署名された証明書の要求が生成されたあとで、更新すると証明書は自己署名済みの証明書として表示されます。
- 6388022    Directory Proxy Server によって使用される SSL ポートが正しくない場合に、そのポートに対するセキュリティー保護された検索要求のあとで Directory Proxy Server がすべての接続を閉じる場合があります。
- 6390118    プロキシ承認ではなくクライアントアプリケーション証明書に基づく認証を使用するように設定されたとき、Directory Proxy Server がリフェラルホップ数を正確にカウントできません。



- 6390220 データビューの作成時には `base-dn` プロパティを指定できますが、データビューの作成後に `base-dn` プロパティを "" (ルート DSE) に設定することはできません。
- 6410741 Directory Service Control Center では、値を文字列としてソートします。そのため、Directory Service Control Center で数字をソートすると、それらの数字は文字列であるかのようにソートされます。
- 0、20、および 100 を昇順にソートすると、0、100、20 というリストが得られます。0、20、および 100 を降順にソートすると、20、100、0 というリストが得られます。
- 6439604 アラートを設定したあと、変更を有効にするには Directory Proxy Server を再起動する必要があります。
- 6447554 Directory Proxy Server で、数値形式または辞書形式のデータ配布を設定したときに、別のデータビューに移動するエントリの名前変更に失敗します。
- 6461510 Directory Proxy Server では、リフェラルのホップ制限が機能しません。
- 6469154 Windows では、`dsadm` および `dpadm` コマンドによる出力とヘルプメッセージが、簡体字中国語および繁体字中国語にローカライズされていません。
- 6488197 Windows システムでのインストール後およびサーバーインスタンス作成後は、インストールおよびサーバーインスタンスのフォルダに対するファイルアクセス権により、すべてのユーザーにアクセスが許可されず。
- この問題点に対処するには、インストールおよびサーバーインスタンスのフォルダのアクセス権を変更します。
- 6488297 Windows では、DSCC の初期化は Administrator ユーザーしか実行できません。
- 6493349 Directory Service Control Center は、既存の除外されたサブツリーまたは代替検索ベースの DN を変更するときにコンマを削除します。
- 6494540 セキュリティー保護されていない LDAP アクセスをはじめて有効または無効にしたあと、変更を有効にするには Directory Proxy Server を再起動する必要があります。
- 6497547 制限時間とサイズ制限の設定は、LDAP データソースでのみ機能しません。
- 6497992 コマンド `dpadm set-flags cert-pwd-store=off` を使用したあと、Directory Service Control Center を使用して Directory Proxy Server を再起動できません。

6501867 ASCII 文字と複数バイト文字の両方を組み合わせたサーバーインスタンス名とともに `dpadm start` コマンドを使用した場合に失敗する現象が確認されています。

6505112 既存の接続ハンドラに `data-view-routing-custom-list` プロパティを設定する場合、エスケープが必要な文字(コンマなど)を含むデータビュー名を使用するとエラーが発生します。

この問題点に対処するには、エスケープが必要な文字を含むデータビュー名を指定しないでください。たとえば、DN を含むデータビュー名を使用しないでください。

6511264 Directory Proxy Server の DN 名前変更機能を使用する際に、同じ DN コンポーネントが繰り返し登場する場合は、それらは一括して変更されることに注意してください。

たとえば、`o=myCompany.com` で終わる DN の名前を、`dc=com` で終わるように変更する場合を考えてみます。たとえば、`uid=userid,ou=people,o=myCompany.com,o=myCompany.com` のように元のコンポーネントが繰り返されている場合、名前が変更された結果、DN は `uid=userid,ou=people,dc=com` となり、`uid=userid,ou=people,o=myCompany.com,dc=com` とはなりません。

6520368 Directory Proxy Server を介して Oracle 9 にアクセスするための JDBC 接続設定は、ドキュメントに記載されている手順どおりではありません。

ホスト `myhost`、ポート 1537 上で Oracle 9 サーバーが待機し、システム識別子 (SID) `MYINST` を持つインスタンスが存在する次の設定を考えてみます。このインスタンスには、データベース `MYNAME.MYTABLE` が含まれています。

一般的には、`MYTABLE` へのアクセスを設定するには、次のプロパティを設定します。

- JDBC データソースで、`db-name:MYINST` を設定します。
- JDBC データソースで、`db-url:jdbc:oracle:thin:myhost:1537:` を設定します。
- JDBC テーブルで、`sql-table:MYNAME.MYTABLE` を設定します。

ここまでの設定で機能しない場合は、さらに次のように `MYTABLE` へのアクセスを設定してみてください。

- JDBC データソースで、`db-name:(CONNECT_DATA=(SERVICE_NAME=MYINST))` を設定します。
- JDBC データソースで、`db-url:jdbc:oracle:thin:@(DESCRIPTION=(ADDRESS_LIST=(ADDRESS=(PROTOCOL=TCP)(HOST=myhost)(PORT=1537)))` を設定します。

- JDBC テーブルで、`sql-table:MYNAME.MYTABLE` を設定します。
- 6542857 Solaris 10 で Service Management Facility (SMF) を使用してサーバーインスタンスを有効にした場合、システムをリブートしてもインスタンスが起動しないことがあり、次のエラーを返します。

```
svcadm: Instance "svc:/instance_path" is in maintenance state.
```

この問題を回避するには、ローカルユーザーを使用して Directory Server および Directory Proxy Server サービスを作成します。
- 6547759 HP-UX では、異なるロケールに設定された複数のブラウザセッションによって DSCC にアクセスした場合、DSCC には、ブラウザの設定ロケールと異なるロケールの文字が表示されることがあります。
- 6551076 マシンに複数のホスト名がある場合、コンソールは Directory Proxy Server インスタンスのバックエンド状態を取得しません。
- 6573439 DSCC のインスタンスの「詳細な表示オプション」で、「アクセスログ」タブ、「エラーログ」タブ、および「監査ログ」タブの日付がローカライズされていません。
- 6583798 DSCC 6.0 では、DSCC でデータソースを作成する場合、`useTCPNoDelay` はデフォルトで `false` に設定されますが、管理コマンド `dpconf create-ldap-data-source` によってインスタンスを作成する場合は `use-tcp-no-delay` のデフォルト値が `true` に設定されます。
- 6588319 Tomcat サーバーで構成された DSCC で、「ヘルプ」および「バージョン」ポップアップウィンドウのタイトルに含まれる複数バイト文字が文字化けしています。
- 6590460 `dpadm show-cert dps-instance-path` コマンドの出力で、文字列 `owner` が簡体字中国語および繁体字中国語に翻訳されていません。
- 6639674 Directory Proxy Server 構成プロパティ `allow-bind-operations` が `false` に設定されている場合、`dpconf` コマンド行引数と `--secure-port` オプションを使用して SSL ポートに接続することはできません。TLS の起動 (デフォルト) またはクリア接続 (`--unsecured` オプション) による接続は可能です。
- 6640597 `basedn` が元のマシンのものと異なるリフェラルに従って操作している場合、Directory Proxy Server は ADD 操作の DN を変更しません。リフェラルを転送するだけの場合とは対照的に、リフェラルに従うよう設定された Directory Server インスタンスを持つ Directory Proxy Server インスタンスに対して ADD を試行すると、間違った `basedn` により参照したサーバー上で ADD が拒否されます。

`ldapmodify` コマンドを使用して ADD を Directory Server インスタンスに対して直接実行すると、ADD が機能します。

- 6649984 証明書データベースに長さの短いパスワードを設定しても、警告が行われません。パスワードが短すぎても、Directory Service Control Center によって受け入れられます。cert サブコマンドを付けて dpadm コマンドを発行すると、コマンドがハングアップする可能性があります。
- 6723858 プロキシサーバーは、バックエンドディレクトリサーバーの requires-bind-password プロパティを無視します。
- 6757756 dpadm list-running-instances コマンドは、現在のインストールから起動されたインスタンスの一覧を表示せず、現在のユーザーに属するインスタンスのみの一覧を表示します。
- 6791946 OpenSolaris では、アラートが発生した場合に Directory Proxy Server はそのアラートを syslog に記録しません。
- 6874624 廃止された定義が 28pilot.ldif ファイルに残ります。
- この問題を回避するには、28pilot.ldif ファイルに次のエイリアス指定を追加します。

```
objectClasses: ( 0.9.2342.19200300.100.4.4 NAME ('newPilotPerson' 'pilotPerson') DESC <...>)
```

- 6874631 uidObject オブジェクトクラスがスキーマに存在しません。

この問題を回避するには、00core.ldif ファイルに次のオブジェクトクラスを追加します。

```
objectClasses: ( 1.3.6.1.1.3.1 NAME 'uidObject' SUP top AUXILIARY MUST uid X-ORIGIN 'RFC 4519')
```

- 6889439 Directory Proxy Server は、属性 timeResolutionMode および timeResolutionInMillisec に対するスキーマ違反を表示します。

このメッセージは無害です。この問題を回避するには、次の手順を実行します。

1. jar プログラムに対するアクセス権があることを確認します。このプログラムはすべての JDK インストールに付属しています。
2. Directory Proxy Server インスタンスを停止します。
3. カレントディレクトリを Directory Server インストールディレクトリに変更します。
4. 次のコマンドを実行して、Directory Proxy Server アーカイブからスキーマファイルを抽出します。

```
$ jar xvf dsee7/lib/jar/dps.jar com/sun/directory/proxy/config/config_schema.ldif
```

5. テキストエディタを使用してスキーマファイル com/sun/directory/proxy/config/config\_schema.ldif を次のように編集します。

- a. 文字列 NAME ( 'useNanoTimeforEtimes' ) を含む属性 attributeTypes を削除します。
  - b. 次の内容で、新しい属性 attributeTypes を追加します。
 

```
attributeTypes: ( "" NAME ( 'timeResolutionInMilliSec' ) DESC '' \
SYNTAX 1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 SINGLE-VALUE X-ORIGIN 'DPS' )
```

必ず括弧をスペースで区切ってください。
  - c. 文字列 NAME 'topConfigEntry' を含む属性 objectClasses を検索します。
  - d. この属性の行で、文字列 useNanoTimeforEtimes を検索して timeResolutionMode に名前を変更します。
  - e. ファイルを保存して閉じます。
6. 次のコマンドを実行して、スキーマファイルに加えた変更を Directory Proxy Server アーカイブに適用します。

```
$ jar uvf dsee7/lib/jar/dps.jar com/sun/directory/proxy/config/config_schema.ldif
```

6899299 Windows Server 2008 では、サーバーインスタンスがブート時に dpadm enable-service コマンドを使用して起動するよう設定されている場合、dpadm info コマンドによって表示されるステータスが停止中となります。この場合、dpadm コマンドまたは DSCC を使用して、インスタンスを停止または再起動できません。

Windows サーバマシンの起動時には、Windows Service Manager を使用してサーバーインスタンスを起動してください。



## Identity Synchronization for Windows の修正されたバグと既知の問題点

---

この章では、Identity Synchronization for Windows のリリース時に入手可能な製品固有の情報が含まれています。

この章では、79 ページの「[Identity Synchronization for Windows の既知の問題と制限事項](#)」について説明しています。

### Identity Synchronization for Windows の既知の問題と制限事項

この節では、リリース時点での既知の問題点および制限事項の一覧を示します。

#### Identity Synchronization for Windows の制限事項

この節では、製品の制限事項の一覧を示します。制限事項には、必ずしも変更要求 ID が関連付けられるわけではありません。

Identity Synchronization for Windows を正しくインストールするためには、`sun-sasl-2.19-4.i386.rpm` が必要です。

Linux では、Identity Synchronization for Windows をインストールする前に、使用しているシステム上に `sun-sasl-2.19-4.i386.rpm` パッケージがインストールされていることを確認してください。このパッケージがインストールされていないと、Identity Synchronization for Windows のインストールは失敗します。SASL パッケージは、JES 5 以降の配布パッケージの共有コンポーネントから取得できません。

ファイルアクセス権を手作業で変更した場合の問題点

インストール済みの Directory Server Enterprise Edition 製品ファイルのアクセス権を変更すると、場合によってはソフトウェアが正常に動作しなくなる可能性があります。

この制限事項に対処するには、適切なユーザーアクセス権およびグループアクセス権を持つユーザーとして製品をインストールします。

Identity Synchronization for Windows コアサービスのフェイルオーバーが行われない Identity Synchronization for Windows コアサービスがインストールされたシステムを失った場合、Identity Synchronization for Windows コアサービスを再インストールする必要があります。Identity Synchronization for Windows コアサービスのフェイルオーバーはありません。

ou=services (Identity Synchronization for Windows DIT の設定ブランチ) を LDIF 形式でバックアップし、Identity Synchronization for Windows の再インストール中にこの情報を使用してください。

#### Microsoft Windows 2003 SP1 での認証動作の変更

Windows 2003 SP1 をインストールした場合、デフォルトでは、ユーザーは旧パスワードを使用して自分のアカウントに 1 時間アクセスできます。

その結果、ユーザーが Active Directory で自分のパスワードを変更すると、オンデマンド同期属性 `dspswvalidate` は `true` に設定され、旧パスワードが Directory Server への認証に使用できます。それにより、Directory Server で同期されるパスワードは、現在の Active Directory パスワードではなく、以前の旧パスワードになります。

この機能を無効にする方法の詳細は、[Microsoft Windows サポートオンライン \(http://support.microsoft.com/?kbid=906305\)](http://support.microsoft.com/?kbid=906305) を参照してください。

管理サーバーを削除する前に `serverroot.conf` の削除が必要

管理サーバーをアンインストールするには、管理サーバーのパッケージを削除する前に `/etc/mps/admin/v5.2/shared/config/serverroot.conf` を削除してください。

CLASSPATH の `admin jar` パスを言及する

CLASSPATH には、`admin jar` の場所が含まれている必要があります。含まれていないと、再同期中に `noClassDefFound` エラーが表示されます。

Directory Server Enterprise Edition に一致するように PSO パスワードポリシー設定を設定

Active Directory 2003 および以前のバージョンは、大域でドメイン全体を対象とする、グローバルポリシーオブジェクト (GPO) を使用します。その結果、パスワードポリシーおよびアカウントロックアウトの設定は必然的に全体を対象とします。ただし、Active Directory 2008 (または 2008 SR2) からは、個々のユーザーやグループに対して、パスワード設定オブジェクト (PSO) をドメインレベルでより細かく適用できるようになりました。Identity Synchronization for Windows では、Active Directory と Directory Server Enterprise Edition でパスワードポリシーおよびアカウントロックアウトの設定が統一されている必要があります。PSO で定義したアカウントロックアウト設定が、特定のユーザーまたはグループの Directory Server Enterprise Edition アカウントロックアウトポリシーと一致していることを確



認してください。特に、次の PSO 属性が Directory Server Enterprise Edition の設定内で一致していることを確認してください。

|                       |                                               |
|-----------------------|-----------------------------------------------|
| msDS-LockoutThreshold | ユーザーアカウントをロックアウトするまでに許容されるパスワードの試行失敗回数を指定します。 |
| msDS-LockoutDuration  | パスワードの試行失敗回数が超過した場合に、アカウントがロックアウトされる時間を指定します。 |

Active Directory がリフェラルを返すように設定している場合、オンデマンドの同期に長い時間がかかり「UNWILLING TO PERFORM」というエラーメッセージが返される場合があります。回避方法として、`ldapmodify` コマンドを使用して、Identity Synchronization for Windows プラグインを実行しているディレクトリサーバーに次に示す変更を適用します。

```
dn: cn=config,cn=pwsync,cn=config
changetype: modify
add: followreferrals
followreferrals: FALSE
```

読み取り専用のドメインコントローラがサポートされない

Identity Synchronization for Windows は、ユーザーの作成および変更を同期するために、書き込み可能なドメインコントローラを必要とします。読み取り専用のコントローラはサポートされていません。

属性マッピング、作成式、および RDN 属性が推奨されたとおりに指定されていない場合、グループ同期が失敗する

属性マッピング、作成式、および RDN 属性を、次に示すように設定する必要があります。

- Sun Directory Server と Active Directory との間の属性マッピングは、次のように定義する必要があります。

```
DS    < ----- > AD
cn          cn
uid         samaccountname
```

- 作成式は次のように定義する必要があります。

```
for DS: uid=%uid%,<sync_base>
for AD: cn=%cn%,<sync_base>
```

- Sun Directory Server ユーザーの場合、同期対象グループに属する RDN 属性は `uid` である必要があります。

属性を同時に更新する動作が定義されていない

グループ同期で、エントリの属性の同時変更が定義されていません。

## システムまたはアプリケーション障害時のデータ回復の実行

ハードウェアまたはアプリケーションで障害が発生したあと、同期されたディレクトリソースの一部にあるバックアップからデータを復元しなければならない場合があります。

ただし、データ回復の完了後、同期を通常どおり進行できることを保証するために、追加の手順を実行する必要があります。

コネクタは通常、メッセージキューに伝播された最後の変更についての情報を維持します。

コネクタ状態と呼ばれるこの情報は、コネクタがそのディレクトリソースから読み取る必要がある後続の変更を特定するために使用されます。同期されるディレクトリソースのデータベースがバックアップから復元される場合、コネクタ状態がすでに有効でなくなっている可能性があります。

Active Directory および Windows NT 用の Windows ベースのコネクタも内部データベースを維持します。データベースは、同期されるデータソースのコピーです。このデータベースは、接続されたデータソースのどの部分に変更されたかを特定するために使用されます。接続された Windows ソースがバックアップから復元された時点で、内部データベースは有効ではなくなります。

一般に、回復されたデータソースを再度取り込む目的には `idsync resync` コマンドを利用できます。

---

注-パスワードを同期する目的には、1つの例外を除いて再同期は使用できません。Directory Server 内のパスワードを無効にするために、`-i ALL_USERS` オプションを使用できます。これは、再同期データソースが Windows の場合に可能な方法です。また、SUL リストには Active Directory システムのみを含める必要があります。

---

ただし、すべての状況で `idsync resync` コマンドを使用できるとは限りません。



---

注意-次に説明する手順のいずれかを実行する前に、同期が停止していることを確認してください。

---

### 双方向の同期

同期設定に応じて、適切な修飾子設定を指定して `idsync resync` コマンドを使用します。resync 操作のターゲットとしては、回復されるディレクトリソースを使用します。

## 単方向の同期

回復されるデータソースが同期の送信先である場合、双方向の同期のときと同じ手順に従うことができます。

回復されるデータソースが同期のソースである場合、回復されるディレクトリソースの再度取り込むには引き続き `idsync resync` を使用できます。Identity Synchronization for Windows の設定で、同期フローの設定を変更する必要はありません。`idsync resync` コマンドでは、`-o Windows|Sun` オプションを使用して、設定されたフローとは無関係に同期フローを設定することができます。

例として次のシナリオを考えます。

Directory Server と Active Directory の間で、双方向の同期が設定されています。

- Microsoft Active Directory サーバーのデータベースを、バックアップから回復する必要があります。
- Identity Synchronization for Windows では、この Active Directory ソースは SULAD に対して設定されます。
- 変更、作成、および削除の双方向同期は、この Active Directory ソースと Sun Directory Server ソースの間で設定されます。

### ▼ 単方向の同期を実行する

- 1 同期を停止します。

```
idsync stopsync -w - -q -
```

- 2 **Active Directory** ソースを再同期します。また、変更、作成、および削除を再同期します。

```
idsync resync -c -x -o Sun -l AD -w - -q -
```

- 3 同期を再開します。

```
idsync startsync -w - -q -
```

## ディレクトリソース固有の回復手順

以降の手順は、特定のディレクトリソースに対応します。

### Microsoft Active Directory

Active Directory をバックアップから復元できる場合は、双方向または単方向の同期について説明した節の手順に従います。

ただし、重大な障害が発生したあとは、使用するドメインコントローラの変更が必要になる場合があります。この場合、Active Directory コネクタの設定を更新するため、次の手順に従います。

## ▼ ドメインコントローラを変更する

- 1 **Identity Synchronization for Windows** 管理コンソールを起動します。
- 2 「**Configuration**」タブを選択します。「ディレクトリソース」ノードを展開します。
- 3 適切な **Active Directory** ソースを選択します。
- 4 「コントローラの編集」をクリックし、新しいドメインコントローラを選択します。  
選択したドメインコントローラを、ドメインの NT PDC FSMO ロール所有者にします。
- 5 設定を保存します。
- 6 **Active Directory** コネクタが動作しているホストで、Identity Synchronization サービスを停止します。
- 7 *ServerRoot/isw-hostname/persist/ADP xxx* の下にある、ディレクトリを除くすべてのファイルを削除します。ここで、*xxx* は **Active Directory** コネクタ ID の数字部分です。たとえば、Active Directory コネクタ ID が **CNN100** の場合、この数字は **100** です。
- 8 **Active Directory** コネクタが動作しているホストで、Identity Synchronization サービスを開始します。
- 9 単方向または双方向の同期について説明した節に示されている同期フローに従い、手順を進めます。

## フェイルオーバーと Directory Server

旧バージョン形式の更新履歴ログデータベースと、同期されるユーザーがいるデータベースのどちらか一方または両方が、重大な障害によって影響を受ける可能性があります。

## ▼ Directory Server のフェイルオーバーを管理する

- 1 旧バージョン形式の更新履歴ログデータベース  
旧バージョン形式の更新履歴ログデータベースで、Directory Server コネクタが処理できない変更が発生した可能性があります。旧バージョン形式の更新履歴ログデータベースの復元に意味があるのは、バックアップに未処理の変更が含まれる場合に限られます。*ServerRoot/isw-hostname/persist/ADP xxx/accessor.state* ファイル内の最新のエントリを、バックアップ内の最後の *changenumber* と比較しま

す。accessor.state の値がバックアップ内の changenumber 以上である場合は、データベースを復元しないでください。その代わりに、データベースを再作成してください。

旧バージョン形式の更新履歴ログデータベースが再作成されたあとに、必ず idsync preps を実行してください。別の方法として、Identity Synchronization for Windows 管理コンソールの「ディレクトリソース」ウィンドウで「Directory Server の準備」をクリックします。

Directory Server コネクタは、旧バージョン形式の更新履歴ログデータベースが再作成されたことを検出し、警告メッセージをログに出力します。このメッセージは無視しても安全です。

## 2 同期対象データベースの場合

同期対象データベースのバックアップが利用できない場合、Directory Server コネクタを再インストールする必要があります。

同期対象データベースをバックアップから復元できる場合は、双方向または単方向の同期について説明した節の手順に従います。

## Identity Synchronization for Windows 6.0 の既知の問題点

この節では、既知の問題点の一覧を示します。既知の問題点には変更要求 ID が関連付けられています。

4997513 Windows 2003 システムでは、ユーザーが次回ログイン時にパスワードを変更しなければならない設定がデフォルトでオンになっています。Windows 2000 システムでは、この設定はデフォルトではオフです。

Windows 2000 および 2003 システムで「ユーザーは次回ログオン時にパスワードの変更が必要」設定をオンにしてユーザーを作成すると、Directory Server 上ではパスワードなしのユーザーが作成されます。ユーザーが次回 Active Directory にログインするとき、ユーザーはパスワードを変更する必要があります。この変更により、そのユーザーの Directory Server 上でのパスワードは無効化されます。またこの変更により、そのユーザーが次回 Directory Server への認証を行うときに、オンデマンドでの同期が強制的に必要になります。

Active Directory 上でパスワードを変更するまでの間、ユーザーは Directory Server への認証を行うことはできません。

5077227 Remote Administration 2.1 を含む pcAnywhere 10 で Identity Synchronization for Windows コンソールを表示しようとする時、問題が発生する可能性があります。pcAnywhere version 9.2 では、同様の問題の発生は確認されて

いません。問題が解決しない場合は、リモート管理ソフトウェアを削除してください。代替としては VNC を使用できます。VNC では、Identity Synchronization for Windows コンソールの表示に関する問題は確認されていません。

- 5097751 FAT 32 でフォーマットされたファイルシステム上の Windows システムに Identity Synchronization for Windows をインストールする場合、ACL は利用できません。また、セットアップ時にアクセス制限が施行されません。セキュリティを確保するために、Identity Synchronization for Windows のインストールは必ず、NTFS ファイルシステム上の Windows に対して行うようにしてください。
- 6251334 Active Directory ソースの変更後であっても、ユーザー削除の同期を停止できません。したがって、同期対象ユーザーリストが同じ Active Directory ソース内の別の組織単位 (OU) にマップされる場合、削除の同期は継続します。ユーザーは Directory Server インスタンス上では削除されたように見えます。SUL マッピングを持たない Active Directory ソースからユーザーが削除される場合でも、ユーザーは削除されたように見えます。
- 6254516 コンシューマ上で Directory Server プラグインをコマンド行を使用して設定するとき、プラグインはコンシューマに対して新しいサブコンポーネント ID を生成しません。プラグイン設定はコンシューマに対して新しい ID を生成しません。
- 6288169 Identity Synchronization for Windows 用のパスワード同期プラグインは、accountlock および passwordRetryCount をチェックする前であっても、未同期のアカウントについて Active Directory へのバインドを試みず。
- この問題点を解決するには、LDAP サーバー上でパスワードポリシーを施行します。また、ユーザー検索時に次のフィルタを使用するように Access Manager を設定します。
- ```
( | ( ! ( passwordRetryCount=* ) ( passwordRetryCount <=2 ) )
```
- ただし、この回避方法では、LDAP 経由でのログイン試行数が多すぎるときに、ユーザーが見つからないというエラーが返されます。この回避方法では、Active Directory アカウントをブロックしません。
- 6331956 o=NetscapeRoot がレプリケートされる場合に、Identity Synchronization for Windows コンソールが起動に失敗します。
- 6332183 削除が可能になる前に追加操作のフローが Directory Server から Active Directory に移ると、Identity Synchronization for Windows は、ユーザーがすでに存在するという例外をログに出力する可能性があります。同期中に削除操作よりも先に追加操作が実行される競合状況が発生する可能性があります。結果として、Active Directory が例外をログに出力します。

たとえば、ユーザー dn: user1, ou=isw\_data が既存のグループ dn: DSGroup1, ou=isw\_data に追加された場合、ユーザーがグループから削除されると、グループの uniquemember が変更されます。userdn: user1, ou=isw\_data に対して、同じ DN を持つグループに同じユーザーが追加されると追加操作が行われます。この時点で、Identity Synchronization for Windows はユーザーがすでに存在するという例外をログに出力する場合があります。

- 6332197 ユーザー情報がまだ作成されていないグループを Directory Server 上で同期すると、Identity Synchronization for Windows はエラーを返します。
- 6335193 ユーザーを Directory Server から Active Directory に同期する目的で、再同期コマンドの実行を試みる場合があります。未同期のユーザーが未同期グループに追加されると、グループエンティティの作成に失敗します。
- この問題を解決するには、同期が正しく行われるように、resync コマンドを2回実行するようにしてください。
- 6336471 Identity Synchronization for Windows プラグインは、連鎖されたサフィックスを通じた検索を行うことができません。結果として、Directory Server インスタンス上で変更およびバインド操作を実行できません。
- 6337018 Identity Synchronization for Windows で、XML ファイルへの Identity Synchronization for Windows 設定のエクスポートがサポートされるべきです。
- 6339444 同期ユーザーリストで「基本 DN」ペインの「参照」ボタンを使用して、同期の範囲を指定できます。範囲を指定するとき、サブサフィックスは取得されません。
- この問題点に対処するには、読み取りおよび検索に対して匿名アクセスを許可する ACI を追加します。
- 6379804 Windows システム上で Identity Synchronization for Windows のコアコンポーネントを Version 1.1 SP1 にアップグレードする際に updateCore.bat ファイルで、管理サーバーへの参照がハードコードされている部分に誤りがあります。その結果、アップグレード処理の一部が正常に完了しません。
- この問題を解決するには、アップグレードスクリプトの管理サーバーを参照している部分(2箇所)を置き換えます。
- アップグレードスクリプトの 51 行目と 95 行目の次の命令を置き換えます。変更内容を次に示します。
- ```
net stop "Sun Java(TM) System Administration Server 5.2"
```

この行を次のように変更します。

```
net stop admin52-serv
```

指示どおりに変更を行なったあとで、アップグレードスクリプトを再実行してください。

- 6386664 Identity Synchronization for Windows は、グループ同期機能を有効にした時点で Active Directory と Directory Server の間でユーザーおよびグループの情報を同期します。コマンド行から `resync` コマンドが発行されてからはじめて同期が発生するのが理想的な動作です。
- 6388815 入れ子のグループの同期は現時点でサポートされていないため、そのような同期を実行しようとする `Active Directory` コネクタおよび `Directory Server` コネクタがクラッシュします。
- 6388872 `Directory Server` で、`Active Directory` に対する `Windows` の作成式について、フロー `cn=%cn%` はユーザーとグループの両方に対して機能します。それ以外のすべての組み合わせに対し、`Identity Synchronization for Windows` では同期中にエラーが発生します。
- 6444341 `Identity Synchronization for Windows` のアンインストールプログラムがローカライズされていません。`WPSyncResources_X.properties` ファイルの `/opt/sun/isw/locale/resources` ディレクトリへのインストールが失敗します。
- この問題点に対処するには、不足している `WPSyncResources_X.properties` ファイルを、`installer/locale/resources` ディレクトリから手動でコピーします。
- 6444878 `Java Development Kit version 1.5.0_06` のインストールと設定は、管理サーバーを実行する前に行なってください。
- 6444896 `Identity Synchronization for Windows` のテキストベースインストールの実行時に、管理パスワードを空にしたまま `Enter` キーを押すと、インストールプログラムが終了します。
- 6452425 `SUNwTls` パッケージの `version 3.11.0` がインストールされている `Solaris` システムに `Identity Synchronization for Windows` をインストールすると、管理サーバーが起動しない場合があります。この問題を解決するには、`Identity Synchronization for Windows` をインストールする前に `SUNwTls` パッケージをアンインストールします。
- 6452538 `Windows` プラットフォームで、`Identity Synchronization for Windows` によって使用される `Message Queue 3.5` では、`PATH` 値の長さが `1K` バイト未満である必要があります。これよりも長い値は切り捨てられます。



- 6472296 Windows システムの日本語ロケールにインストールしたあと、Identity Synchronization for Windows の一部のユーザーインタフェースがローカライズされずに表示されます。
- この問題点に対処するには、インストールを開始する前に、PATH 環境変数に `unzip.exe` を追加します。
- 6477567 Directory Server Enterprise Edition 7.0 で、Identity Synchronization for Windows 用の Directory Server プラグインは Directory Server インストールとともにインストールされます。Identity Synchronization for Windows インストーラでは、Directory Server プラグインはインストールされません。代わりに、Identity Synchronization for Windows はプラグインの設定のみを行います。
- このリリースの Identity Synchronization for Windows では、テキストベースのインストーラによるインストール処理中に、Identity Synchronization for Windows 用 Directory Server プラグインの設定が要求されることはありません。回避方法として、Identity Synchronization for Windows インストールの完了後に、端末ウィンドウから `Idsync dspluginconfig` コマンドを実行します。
- 6485333 Windows システムで、インストーラおよびアンインストーラが国際化されていません。
- 6486505 Windows では、Identity Synchronization for Windows は英語および日本語ロケールのみをサポートしています。
- 6492125 中国語および韓国語ロケールでは、Identity Synchronization for Windows のオンラインヘルプの複数バイト文字が四角形で表示されます。
- 6501874 Directory Server パスワード互換モード (`pwd-compat-mode`) が `DS6-migration-mode` または `DS6-mode` に設定されている場合、Directory Server から Active Directory へのアカウントのロックアウトの同期が失敗します。
- 6501886 Active Directory ドメインの管理者パスワードを変更した場合、Identity Synchronization for Windows コンソールに警告が表示される現象が確認されています。使用しているパスワードが有効な場合でも、表示される警告は「ホストのクレデンシャルが無効です: `hostname .domainname`」となります。
- 6529349 Solaris SPARC では、`/usr/share/lib/mps//jss4.jar` ファイルが存在しないと Identity Synchronization for Windows がアンインストールされない可能性があります。これは、製品インストールの実行時に、インストーラがすでにインストールされている `SUNWjss` パッケージのインスタンスを検出し、これを更新しない場合にのみ発生します。

この問題を回避するには、製品のインストール時に、Java クラスパスに `/usr/share/lib/mps/secv1/jss4.jar` を追加します。

```
$JAVA_EXEC -Djava.library.path=./lib \
-classpath "${SUNWjss}/usr/share/lib/mps/secv1/jss4.jar:\
${SUNWjss}/usr/share/lib/mps/jss4.jar:\
${SUNWxrcsj}/sfw/share/lib/xerces-200.jar:./lib/installsdk.jar:\
./lib/ldap.jar:./lib/webstart.jar:\
${SUNWiquc}/usr/share/lib/jms.jar:./lib/install.jar:\
./resources:./locale/resources:./lib/common.jar:\
./lib/registry.jar:./lib/ldapjdk.jar:./installer/registry/resources" \
-Djava.util.logging.config.file=./resources/Log.properties \
-Djava.util.logging.config.file=./resources/Log.properties \
-Dcom.sun.directory.wps.logging.redirectStderr=false \
-Dcom.sun.directory.wps.logging.redirectStdout=false \
uninstall_ISW_Installer $1
```

6544353 Identity Synchronization for Windows は、Windows オペレーティングシステム上でパスワードのリセット中に、管理者からの最初のログイン要求時に新規パスワードの強制をサポートしません。

6572575 `resync` 中にグループ同期を正常に動作させるには、ユーザーおよびグループの両方が同期のスコープの同一レベルに存在しなければなりません。存在しない場合、エラーが表示されます。

6594767 ドメインコントローラがインストールされた Microsoft Windows を実行しているマシンで、新しいサーバーの作成または既存のサーバーの Web コンソールへの登録中に認証に失敗します。回避方法として、ドメインコントローラのドメイン名を持つユーザー ID を指定します。

6691600 Directory Server エントリのいずれかに補助オブジェクトクラスが含まれている場合、ユーザーを Directory Server から Active Directory に同期したり、Active Directory から Directory Server にリンクしたりできません。

この問題を解決するには、Identity Synchronization for Windows コンソールの補助オブジェクトクラスに、すべての補助オブジェクトクラスを追加します。

6709099 `idsync dspluginconfig` サブコマンドが、新しい Directory Server ソース上のプラグインの設定に失敗します。`idsync dspluginconfig` がアンインストールモードで使用されている場合、アクティブな Identity Synchronization for Windows 設定サーバーの SUBC 値が削除されます。

6721443 デバッグログが有効になっている場合、コネクタが予期せず終了し、「`NullPointerException & ArrayIndexOutOfBoundsException`」例外が表示されます。

この問題を解決するには、デバッグログを無効にします。

- 6725352 Controller OutTask から合成プール値を取得中に、コネクタが予期せず終了します。
- 6728359 メンバー数が 1000 を超えている場合、Directory Server から Active Directory へのグループ同期が部分的に失敗します。グループ同期の操作では、最初の 1000 メンバーのみが同期され、残りは無視されます。
- 6728372 グループに属するユーザーエントリが同期ベースレベルに存在しない場合、Directory Server から Active Directory へのグループ同期が失敗します。
- たとえば、同期ベースが `ou=employees,dc=example,dc=com` の場合、ユーザー dn は `uid=user-1,ou=employees,dc=example,dc=com` である必要があります。ユーザー dn が `uid=user-1,ou=sales,ou=employees,dc=example,dc=com` の形式である場合、グループ同期が失敗します。たとえば、ユーザーと同期ベースの間の `ou=sales` コンテナが原因で、グループ同期が失敗します。
- 6740714 オブジェクトキャッシュは、1500 以上のメンバーを含むグループに対して要求された変更を拒否します。
- 6740715 誤った RDN メンバー値があった場合に、グループエントリに対する再同期操作が失敗します。
- 6744089 メンバー変更が先に旧バージョンの変更履歴ログに記録されていない場合、Directory Server から Active Directory へのメンバー変換が失敗します。
- 6749286 大規模な静的グループの同期中、Directory Server コネクタがデバッグログエントリを監査ログ内に誤って記録します。
- 6749294 Active Directory および Active Directory コネクタの間の接続が、大きなスタティックグループの同期中にタイムアウトし、これが原因で同期操作が失敗します。
- 6749923 グループの種類がドメイングローバル配布として設定されている場合でも、Directory Server から Active Directory への再同期操作によって、ドメイングローバルセキュリティグループが常に作成されます。
- 6758690 空の値を持つ属性の同期が失敗します。これは、LDAP サーバーが空の値を受け入れるのに対し、Active Directory が空の値を受け入れないために発生します。
- 6762863 英語以外のロケールで、グループフローの設定にかかわらず、Directory Server から Active Directory へのグループフローが常にドメイングローバルセキュリティとして表示されます。

- 6773492 旧バージョン形式の更新履歴ログエントリを正常に解析できない場合、Identity Synchronization for Windows コネクタが繰り返し再起動します。
- 6793036 DIT ルートが同期ルートとして設定されている場合、Active Directory から Directory Server へのグループ同期が失敗します。
- 6796659 グループ同期が有効になっていて、DIT で同期ベースが高くなっている場合、idsync resync が反応しなくなります。
- 6854004 RCL エントリを処理するとき、Directory Server コネクタが反応しなくなる場合があります。
- 6862596 125359-08 パッチを適用すると、Identity Synchronization for Windows 管理コンソールが期待どおりに動作しません。
- 6862663 Identity Synchronization for Windows コアより先に 119214-19 パッチをインストールした場合、dsadm コマンドが動作しなくなります。

## Directory Server Resource Kit の修正されたバグと既知の問題点

---

この章では、Directory Server Resource Kit のリリース時に入手可能な製品固有の重要情報が含まれています。

この章では、次の内容について説明します。

- 93 ページの「Directory Server Resource Kit で修正されたバグ」
- 93 ページの「Directory Server Resource Kit の既知の問題点と制限事項」

### Directory Server Resource Kit で修正されたバグ

この節では Directory Server Resource Kit の前回のリリースから修正されたバグの一覧を示します。

6565893 `idsktune` コマンドは、SuSE Enterprise Linux 10 をサポートしていません。

### Directory Server Resource Kit の既知の問題点と制限事項

この節では、リリース時点での既知の問題点および制限事項の一覧を示します。

- 5081543 `searchrate` は、Windows システムで複数のスレッドを使用するとクラッシュします。
- 5081546 `modrate` は、Windows システムで複数のスレッドを使用するとクラッシュします。
- 5081549 `authrate` は、Windows システムで複数のスレッドを使用するとクラッシュします。
- 5082507 `dsmlsearch` コマンドの `-D` オプションは、バインド DN ではなく HTTP ユーザー ID を取ります。

この問題点に対処するには、Directory Server 内の DN にマップされたユーザー ID を指定します。

- 6379087 NameFinder を Windows システム上の Sun Java System Application Server に配備できない現象が確認されています。
- 6393554 NameFinder が、配備のあとにエラーが見つからないページをスローする現象が確認されています。
- この問題点に対処するには、nsDSRK/nf の名前を nsDSRK/NF に変更します。
- 6393586 NameFinder の「My Selections」リストには、2 名を超えるユーザーを追加できません。
- 6393596 NameFinder では、「LastName」、「FirstName」、「Email」、および「GivenName」以外のエントリ値を検索できません。
- 6393599 NameFinder では、グループの検索ができません。
- 6576045 modrate および searchrate 起動プログラムを終了しても、実際の modrate および searchrate の各プロセスは終了しません。
- 6754994 idsktune コマンドが、getrlimit() で誤ったシステム制限を表示します。次の警告メッセージが表示されます。

```
WARNING: processes are limited by RLIMIT_DATA to 2047 MB in size.
```

```
WARNING: processes are limited by RLIMIT_VMEM to 2047 MB in size.
```

```
WARNING: processes are limited by RLIMIT_AS to 2047 MB in size.
```